

意識の流れ あなたに語り掛けましょう

第3巻

意識の流れ あなたに語り掛けましょう

田池留吉

私がU T A会に参加して共にセミナーをさせていただくのは、平成26年12月までとさせていただきます。皆さん方がますます学びを進めていかれることを切に望んでいます。

私の勉強から 塩川香世

日々の生活の中で、淡々と心を見る作業をして、そして瞑想をする時間を持っていけば、どなたも心で感じていける世界が、真実の波動の世界、「田池留吉の世界」です。

「田池留吉の世界」は、生きとし生ける物の中にある世界だからです。

「田池留吉の世界」は、どこかから探してくるものではありません。

もうすでに自分達の中にあっただんです。私達人間は、そのことに全く気付かないで、今も存在しているだけなんです。

淡々と心を見て、瞑想を重ねていくということは、自分の心の針を自分の中に向けていくということです。

今まで、自分の外に、例えば、自分の仕事、自分の家族、自分の健康、世の中の出来事等に向けてきた思いを、少しずつ、少しずつ、弱めていくところから、まず始めましょう。

弱めていくということは、おざなりにすることではなくて、あまりそういうことにとらわれないようにしましょうということです。

そして、そのエネルギーを、自分を知っていく、つまり、自分の流すエネルギーを感じていく方向に使っていく、日々の時間を割いていく毎日を重ねていけばいいのではないのでしょうか。

そうしていけば、分かってきます。自分の中から、伝わってくるものがあるんです。自分の中に響いてくるものがあるんです。

それは、誰が自分に教えてくれていたかという、お母さんだったんです。お母さんと言っても、自分を産んでくれた母親という狭い意味でのお母さんではありません。

そういうことも、みんな自分の心で分かってきます。

自分にはたくさんのお母さんがいて、そのお母さんの温もりの中に包まれていることを感じてくるんです。

私は、それが「田池留吉の世界」を感じていく本当に第一歩だと思っています。

お母さんの温もりを、自分の中で思い起こし、その中にあった自分だったと本当に心で分かっていたら、仏典や経典、そして聖書の類など全く必要としないことが歴然としてきます。

難解な言葉を重ね、美辞麗句を並べても、そこから流れてくる波動、エネルギーは真っ黒だと心で分かるからです。

また、厳しい修行を重ねていけば、悟りの境地に到達するなど、本当に愚の骨頂だということも分かってきます。修行する人は偉い人でもなければ、立派な人でもありません。修行などもっての

外です。肉体細胞の思いを感じられない冷酷な人なんです。肉体細胞に対して、優しさのひとかけらも向けられないから、そういうことができるのです。自分に対して本当に冷たい、むごいことをして、何を悟ろうとしていくのでしょうか。

このように、「田池留吉の世界」は、世の中の流れとは全く違います。

世の中の流れと「田池留吉の世界」の流れ。この二つの流れは、合い交えることはありません。そのどちらにも足を踏み入れてということは、絶対にあり得ないんです。

今は、殆どの人は、世の中の流れの中にすっぽりと収まっています。

その流れだけしか知らないんです。自分の周りを見渡しても、みんなそうだから、例えば、あなたの基盤はどこにあるかなんて言われても、それどういうこと、変な事を言う人だというくらいで終わってしまいます。

しかし、これからは、そうは言っておれない事態にどんどんなっていくんです。

「田池留吉の世界」だけが真実を語ると私は申し上げましたが、これから、それが、色々なところで証明されていきます。

証明されていくというのは、「田池留吉の世界」から語ってきたことが、現実として形となって表れてくるのです。今現在もその兆しはあります。しかし、そんなところではないんです。

「田池留吉の世界」からは、肉、形を基盤とする世の中は間違

いだと語っています。だから、そのメッセージ通り、世の中は、色々なところで崩壊していつているのです。

政治の世界も、経済の世界も、教育界もスポーツの世界も医学界も、宗教の世界はもちろん、あらゆる分野で様々な問題が噴出して、汚い部分が明るみになってきているではありませんか。

もちろん、自然災害がもたらす崩壊は、どんどん過去の記録を更新していきます。エネルギーが巨大化して、想定外のことが起こってくるのです。

「将来が見通せない。不透明だ。世の中どうなっていくんだらうか。私達はどうなっていくんだらうか。」

私達の心の中に、先が見えない不安な思いをどんどん噴出させるような想定外の出来事がどんどん起こってきます。

そのたびに、私達は、何とか、何とかと目の前の出来事に対処していくけれども、追い打ちをかけるように、次から次へと、想定外の出来事が起こってくるのです。

それは、やがて、打つ手もない、なす術がないというところまで、事態は深刻化していきます。

「助けてくれ。救ってくれ。何とかしてくれ。」

SOSの合図に対応していける間は、大変だけれどもまだまだいいんです。

しかし、やがて、それにも限界がくるということを知っておいてください。

「なぜ、このようにこっちもさっちもいかない事態に私達は遭

遇していくのだろうか。」

事態の收拾に躍起になり、生活の立て直しに奔走するばかりではなくて、本当は、みんなそれぞれがそのところを、もっと考えていかなければならないというか、考えざるを得ないところまで、自分達を追い込んでいきます。

「自然的に引き起こされたもの（自然災害）であろうと、人為的なものでであろうと、ある日突然に、しかも、一瞬のうちに自分達の生活も人生も何もかもみんな奪われてしまった。崩壊してしまった。頭の中は真っ白になって、何をどうすればいいのか、これからどう生きていけばいいのか、本当に途方に暮れた。落ち込み苦しみ、悲しみのどん底から立ち上がれないほどのショックを受けた。」

もちろん、これまでに、そういう現実直面してきた人達はたくさんいます。

では、そんな体験を経てきた人達の中に、「なぜ、このようなにちもさっちもいかない事態に私達は遭遇していくのだろうか」と考えた人は、どのくらいいるのでしょうか。

「田池留吉の世界」から流れ出すエネルギー、パワーは、それを私達に促すような仕事をしていきます。

自分達の間違いに自分達で気付けるように働いていくのです。私達に、自分達の本当の姿を知っていきなさいと、メッセージを流し続けていきます。

「田池留吉の世界」について、基盤ということに触れながら、

私の思うところを書かせていただきました。

自然治癒力を思えば、「田池留吉の世界」に私の心が向いていくからです。自然治癒力の世界を語るということは、「田池留吉の世界」を語るということになります。

このことは、自然治癒力だけではありません。例えば、肉体細胞に思いを向けてということは、「田池留吉の世界」に心を向けてということと同じなんです。

今、私は、「田池留吉の世界」に心が向いていくと書きましたが、この「田池留吉の世界」に心を向けてということがすべてなんです。これがまたとても難しいことなんです。その辺のことを少し書き添えておきます。

例えば、病気のさなかに、あるいは色々困った状況のさなかに、自分の心を見て、心の針を正しい方向「田池留吉の世界」に向けていくことは、日頃からの訓練がなければ、とても、とてもではないけれど難しいです。常日頃から、心の針の向け先を管理することを心掛けていなければ、いざという時、そんなに簡単に針を向けることはできません。

どうしても、自分の身体の状態、自分の周りで起こった出来事の進展に、思いが向いてしまいます。肉、形を本物としてずっと今まできたわけだから、どうしても、目の前の出来事に引きずられていくとか、身体が不調ならばそちらのほうに、心は流れていきがちです。頭では、「田池留吉の世界」です。しかし、心はままなりません。その狭間でうろうろしているだけというのが実情です。「田池留吉の世界」に心を向けていけばいいことは分かっ

ていても、そう簡単には、「田池留吉の世界」に心を向けることはできないんです。

また、そういう状態でない場合も、ただひたすらに「田池留吉の世界」を思っていくことは、難しいと思います。

心の根底にあるのは、やはり欲の思いです。「田池留吉の世界」に向けてと向けているつもりでも、欲で向けていては、他力信仰の延長のままです。しかし、この欲で向けているということに気付くのもなかなかなんです。気付くというからには、自分で気付かなければなりません。

本人は向けているつもり。しかし、実は向いていない。自分で気付かない限り、そういう状態が長く続いていくでしょう。

ところで、「田池留吉の世界」からは、確かに、100%の喜びと温もりのエネルギー、パワーが流れているのです。

その100%の喜びと温もりのエネルギー、パワーを100%、受け取っていける心、意識の状態であれば、それは、そこにいわゆる奇跡が起こります。

例えば、病気であれば、医者が驚くほどの回復が見られるのです。医者診たてとは全く違う方向で、元気を取り戻すということもあり得ます。

あなたは、このことをどう思いますか。私は信じられるのです。それほどに、「田池留吉の世界」から流れる100%の喜びと温もりのエネルギー、パワーはすごいということを感じています。

ただ問題は、100%の喜びと温もりのエネルギー、パワーを100%、受け取っていくことができないという現実があるとい

うことです。それが、「田池留吉の世界」に心を向けていく難しさと繋がっていきます。

その現実とは何か。それは、それぞれの心の中に作ってきた他力の世界を、未だに大きく広げているという現実です。

他力の世界…。肉が自分だとする思いから、その自分を幸せにしてくれるもの、自分に喜びを与えてくれるもの、自分にパワーを与えてくれるものとして貪欲に求めてきた、神、仏、宇宙のパワーといった世界です。

それを、一言で言うならば、己一番、我一番の世界です。

肉が自分だとする思いは、己一番、我一番の世界を作り上げました。その思いは、本当の自分を捨て去り、自分を売ってきた思いです。

他力の世界は、欲にまみれた苦しくて、そして、果てしなく寂しい暗闇の世界です。

そんな世界が、自分の中の「田池留吉の世界」を遮っていくのです。自分の中に作ってきた己一番、我一番の世界が、本物の自分を遮断してしまうのです。

自分を自分で遮って、自分を苦しめていくことにエネルギーをどんどん注いできた自分でしたと、心からの気づきと懺悔、その思いが心から噴き出てこない限り、自分の作ってきた他力の世界を自分の中で崩していくことは困難です。

それは本当に困難なんです。しかし、困難だからやめるとか諦めるわけにはいかないんです。

それは、あなたの心が本当に敏感であれば感じられると思います。

過去のあなたがどんな世界にあったか、どんなところから這い上がってきた自分であるか、息も絶え絶えに這い上がってきて、今の肉を持って、ようやく一息ついている状態だ、そういうことが感じられると思います。そのように感じられるからこそ、自分の中に作ってきた他力の世界の崩壊という困難なことに全力を傾けること、これこそが自分の一番の仕事だということも、はっきりと分かるはずです。自分が愛しいと感じるからです。自分を救いたいと思うからです。

だから、自分の変革に全力を傾けていきます。全力を尽くしていきます。そのためには、「田池留吉の世界」に真正面から向き合わなければならないことを知ります。

そして、「田池留吉の世界」に真っ向から抗^{あらが}ってきた自分をどんどん見つめていこうとします。自分の中の「田池留吉の世界」を遮断する扉をどんどん開いていこうとします。

やがて、開いていく鍵が、自分の中にあったことを知っていくのです。

「ああ、お母さんの反省、瞑想と、他力信仰の反省、これが車の両輪だ」。そんなことがどんどん自分の中で感じていけることが、本当に心が敏感だと言えらると思います。

このように、自分の中に作ってきた他力の世界の崩壊により、「田池留吉の世界」を自分の中で証明していけるのです。

そうやって初めて、しっかりと「田池留吉の世界」に心を向けられるのです。誰が証明するのでもない。自分の心が、自分の意識の世界が、証明していくのです。

だから、心を向けていけばいくほど、「ただ向けていけばいい。

どんどん向けていけばいい。ああ、『田池留吉の世界』しかないんだ。みんな、『田池留吉の世界』なんだ」。

そんなことが、手に取るように感じられるのです。

欲で向けようとしても、絶対に「田池留吉の世界」には心を合わせることはできません。なぜならば、「田池留吉の世界」は欲と絶対に合わないからです。

私は、「田池留吉の世界」だけが真実の世界であり、そして、それは自分の中にあったことを知りました。

私の中を何も遮ることなく、すうっと流れていきます。私の中で何も境目はありません。ただ一つの中にあることが分かります。

「本当の自分は、こんなに優しくて温かくてどこまでも広がっていくものなんだ。瞑想をして、心に向けていけば、このエネルギー、パワーがどんどん流れ出し、そして、それは、やがて形となって示されていくんだ。」

私は、心に向けていくことが嬉しくて、そして、心に向けていけばいくほど、「田池留吉の世界」が証明されていくことが嬉しくて、私は自分の針をただそこに合わせていくだけなんだと感じています。

100%の喜びのエネルギー、パワーに限りなく近づいていける喜びを、瞑想の中で感じながら、私はこれからの時間も過ごしていくでしょう。

色々なことが、目の前を通過し、耳を通過していくけれど、私の中は、ただこの世界を自分の中で極めていくことだけをしてい

きなさいと伝えてきます。

正しい方向に向けた心の針は動かないことを確認します。それが瞑想の時間です。

瞑想を繰り返し行う。確認、確認、また確認。私の中に喜びと温もりが広がっていきます。

気に思いを向けてみます。

人間達の欲の思いを、私達、気は吸収します。私達に欲の思いを向けてきます。本来、私達は、田池留吉の世界に一つでした。しかし、人間達の欲の思いが私達をブラックのエネルギーに変えてしまいました。

そして、私達は、今、そのブラックのエネルギーの中で苦しんでいます。

気を求める人達、気功師、気の集まるところ、すべてブラックです。

欲、欲、欲の思いが気というエネルギーを、益々大きくしていきます。

気は本来、喜びのエネルギーでした。

しかし、今、それを私達に伝えてくれる人は、殆どいません。ただ、田池留吉、その世界を感じる意識。その意識が気は喜びのエネルギー、パワーだと感じてくれています。

気を求める心を見てくださいと、私達からのメッセージを伝えてください。

私達は喜びで存在しているんです。しかし、人々の欲の思いで私達は、本来ある姿を変えてしまいました。元あった私達に戻していくべく私達は、その優しいエネルギーを待ち続けています。

よく、私達、気に思いを向けてくださいました。

はい、私達は宇宙のパワーだとも言われています。

しかし、そんなものではありません。私達はただただ喜び。田池留吉、その世界の一つ。優しい温もりの中にあった私達です。

私達を本当に心で思い、心で呼んでいってください。

優しいエネルギーを送ります。心の中で、元あった私達を呼んでくださるよう、私達は待っています。

田池留吉、私は今、気というところに思いを向けて語っていただきました。どうでしょうか。

田池留吉の世界と一つと、気は言っていました。私はそのように感じました。

はい、気の意識が語ったように、人間の欲の世界が、気の世界を別に作り上げたんです。気という本来の姿を感じることなく、自分達が作り上げた世界を気と呼んできました。だから私、田池留吉の世界では、気という言葉を使いませんでした。

本来、気という世界は、喜びのエネルギーなんです。田池留吉の世界と一つだったんです。その気の世界を、人間の欲の心が別の世界とすり替えて使ってきた、その世界が、気の世界だと、何時の頃からか、みんなが呼ぶようになりました。そして、そちらのほうに思いを向けるようになりました。私はだから、あえて、

気という言葉を使わずにきました。

では、なぜ、エネルギー、パワー、波動という言葉を使ったのでしょうか。

やはり、それは皆さんの中で、気という言葉よりも、なじみがあつたということでしょう。

もちろん、エネルギー、パワー、波動という言葉も、気という言葉も、田池留吉の世界ではその区別はありません。

ただ、間違つてとらえてきた人間の心の中を、それらの言葉を通して、感じていただきたい、知っていただきたい、ただそれだけでした。

あなたの今の生活の中で、瞑想をするということに、どの程度重点を置いていますか。

ゆったりと瞑想をする時間を確保できる生活の流れができていますか。

私は、このことが何よりも大切なことだと思っています。

生活環境は、それぞれに違うのは当たり前だし、生活を楽しくていくこともいいけれど、瞑想をすることが二の次、三の次では、話になりません。自分に聞けば分かると思います。おそらく、そんな生き方を、自分自身は望んでいないでしょう。

私は、これまで学んできて、瞑想をする時間を、いつもしっかりと確保できていることが、何よりの幸せだと感じています。

あなたも、今、そういう状態であるならば、それをまず喜んでいくべきです。

いつもしっかりと瞑想をする時間を確保できる状態の中に、自分を置いていることが、どんなに幸せなことなのか、それは、瞑想を重ねてくれば分かることです。瞑想を片手間でやっている人には、このことは死ぬまで分かりません。

「お母さん…と心に向けてごらん。田池留吉…と心の中に呼んでごらん。」

そんな優しい思いを自分に投げかけて、そして、時には長く、時には短く時間をいただく。それを中心にして、自分の生活が回っていきます。幸せです。

おそらく、それぞれのこれからの転生の時間の中で、今世のような静かでゆったりと幸せな時間を作ることは難しいと思います。

今世、学びに集った人は、やるなら今です。次元移行への足がかりを少しでもつけて、帰りましょう。

「田池留吉の世界」は真実を語っているけれども、世の中の流れの中にあっては、「田池留吉の世界」の流れは決して分からないことを、長々と書かせていただきました。

しかし、「田池留吉の世界」を伝えてくれる一人の人間が私達の目の前に現れたことは事実だし、伝えてくれた世界を心で証明できたことも事実です。今という時間は、そのような流れの中にある時間だったのです。

そして、『田池留吉の世界』が語る真実が、これからどんどん形となって示されて、『田池留吉の世界』だけが真実の世界だと証明されていきます」と結ばせていただいて、ここで、もう一度、

本書の見返し部分に戻ります。

自然治癒力は喜びのエネルギーです。

私達も喜びのエネルギーです。

だから、私達は自然治癒力そのものなんです。

自然治癒力の世界は語ってきます。

「私達は、自然治癒力そのものだということが、あなたの心で領けますか。

すべては波動の世界です。だから、すべてはあなたの心で感じていくことなんです。心で感じていけることなんです。その心を学ぶということをしていきましょう。

本物の世界を学んでいきましょう。自分とはどんな存在であるのかを、自分に伝えていける優しい人間に生まれ変わらしましょう。

人に、家族に、世間に認められても、自分が自分を認めることができずにいるあなたではありませんか。」

自然治癒力の世界は、さらに語ってきます。

「自然治癒力を通して、どうぞ、『田池留吉の世界』を知って、そして感じていってください。どうぞ、本当の自分を知っていってください。自分の中のたくさんの自分と出会うチャンスを大切にしてください。」

自分の中のたくさんの自分と出会うチャンス…。

例えば、今、あなたの肉体細胞が病んでいれば、あなたは絶好のチャンスにあるんですと、自然治癒力は語っているはずなんです。

「あなたの肉体細胞に思いを向けて、肉体細胞の思いと一つになっていけるように、心を見ていきましょう。」

このように、どんどん自然治癒力の世界から、メッセージが届きます。

病気をマイナスのイメージとしかとらえられなかった私の心に、自然治癒力の世界が伝えてくれました。

「あなたは本当のことを知らなかっただけです。本当のご自分を知らずにきただけのことなんです。」

そして、私の肉体細胞もまた、自然治癒力と同じように私に伝えてくれていました。

自然治癒力も、肉体細胞も、とても優しい波動で私に伝えてくれています。「私達はあなたです。この波動があなたなんですよ」。

どうぞ、あなたも自然治癒力と試してみてください。その自然治癒力の世界から流れてくる波動を、あなたの心で感じていただければと思います。自然治癒力の世界は語ってくれました。すべては波動の世界であり、それはあなたの心で感じていける世界。そして、その感じていける心を学んでいきましょうと。

目で見て、耳で聞いて、手に触れて、頭で考えて納得できる世界は、本当にちっぽけな薄っぺらな世界なんです。

ちっぽけでしょう、薄っぺらでしょうと形を崩しながら、私達に伝えてくれている優しさ、温かさを心で感じていけるようになっていけば、自然治癒力は喜びのエネルギーだということも、もちろん領けます。

そして、そういう人達がたくさん出てくれば、世の中は間違いなく変わっていきます。

すべてを心でとらえていく流れ。視覚、聴覚、嗅覚、味覚、触覚の五官と頭脳でとらえていく流れではなくて、自分達の心、意識の世界でとらえていく流れ。この流れこそ、私達本来の流れです。私達本来は、波動、エネルギーだからです。

その本来の流れに戻っていきましよう自然治癒力は、私達の身近なところから語ってくれていました。

生きとし生ける物の中に、自らを再生させる力が宿っていることを、私達は知っています。

その身近な自然治癒力の世界も、そして、さらに自分の心の世界、意識の世界を広げて感じる自然治癒力の世界も、みんなみんな、私達に本来ある姿に戻っていきましよう語ってくれています。

その喜びの波動を感じていけるように、私達が本来の私達を取り戻していくことが待たれているのです。

心の針を正しい方向に向けることを知って、そして実践していけば、どなたも、今という時がどんな時なのかを自分の心で知っていくことができます。自分が、なぜ生まれてきたのかを心で知っていくことができます。

そして、自分というものを知っていけばいくほど、嬉しい、ただただ嬉しい、ありがとう、ありがとうの思いが湧いてくるという体験をされるでしょう。

それは、半端な嬉しさ、喜びではありません。温もりと安らぎを伴って、本当に嬉しいんです。ああ、自分が癒されていく感覚、心地よい中に広がっていく感覚です。

何も分からずに苦しんできた自分に、優しさと温もりを伝えている自分がいます。その優しさと温もりにほだされて、どんどん癒されていくのです。それがたまたま嬉しくて幸せなんです。

自分に癒されていく喜びと幸せ、そして、本来あった自分に再生させていく喜びと幸せを味わっていると言ってもいいでしょう。

そんな体験を重ねていけば、自然治癒力の世界とは、どんなに大きくて、喜びの世界なのか知っていくことになります。

それには、日々の生活の中で自分の心を見ることから始め、「田池留吉の世界」から語っていることが信じられるようになるまで、自分の心の中をしっかりと見つめていくことが必要だということは言うまでもありません。

「田池留吉の世界」から語っていることが信じられるようになるまでというのは、世の中の人が、そうだと思い、そうだと信じている流れは、本来の流れ、本流ではなく、濁流だと自分の心で確認できるまでということです。

濁流だと本当に自分の中で確認できれば、世の中との付き合い方、自分の身の振り方、処し方が自ずと決まってくるのではないのでしょうか。

凄まじい勢いの世の中の濁流に押し流されて、あっという間に人生を閉じるということは、本当はあってはならないことなんです。

なぜ生まれてきたかが分からずに死んでいくことは、本当に哀しい切ないことなんです。

自然治癒力は語ります。

「あなたの中で切実に訴えている自分の声に、もっと素直に、そして真摯に耳を傾け、心を傾けていきませんか。

切実に訴えている自分の声に、耳を傾け、心を傾けていける優しい自分になっていきませんか。」

確かに、濁流の中で、みんなと流れていくほうが生きやすいかもしれません。しかし、自分の心を見て、自分の心の中を感じていけば、自分を裏切る生き方はできないはずです。切実に訴えてくる自分を放っておけないはずです。心をどンドン見ていき、どンドン自分の中を感じていけば、苦しい自分もあるけれど、本当に優しい自分もあることが分かるからです。その優しさが自分に迫ってくるのです。

そういう心の見方をしていけば、やがて、本当の優しさ、本当の温もり、本当の喜びが心で分かってきます。

そうすれば、「田池留吉の世界」が語る自然治癒力とは、本当に喜びのエネルギーなんだと感じてきます。本来あった私達に再生させていく喜びのパワーなんだと感じてきます。

喜びのエネルギーであり、喜びのパワーである自然治癒力は、例えば、私達に、次のようなメッセージも伝えてくれています。

「川が氾濫して濁流が街中を流れ出す。山が崩れ土石流となってさらに岩肌を削いでいく。そして、大津波が人も街もみんな一瞬にしてさらっていく。

今、日本の国でも、そういうことがあちらこちらで起こっています。

それは、単に川が氾濫する、山が崩れる、大津波が起こるという一つ一つの災害ではありません。

それは、まさに私達の心の中の濁流です。その濁流の勢いと凄まじさを、自分達の間で見える形で自分達に伝えているのです。

その場面に遭遇して、その場面を目の当たりにして、私達は何を感じ取っているのでしょうか。

ただ不安と恐怖の思いばかりを募らせ、そして、祈ることしかできない心の中をしっかりと見つめていきなさいと、川が氾濫していくのです。山が崩れ、大津波が起こってくるのです。」

そして、また、自然治癒力は語ります。

「メッセージを言葉でとらえることをせずに、あなたの心で感じてください。自然治癒力が語るメッセージの波動を感じてください。

あなたの心が、本当に母の温もりに触れているならば、このことは、はっきりと分かっていただけだと思います。

メッセージは波動です。メッセージはエネルギーです。エネルギーは仕事をします。メッセージ通りの仕事をします。

喜びのエネルギーが形の世界を崩していくのです。喜びで促し続けていくのです。」

私は、今たくさんの宇宙達と交信しています。たくさんの宇宙

達が心に向かってくるんです。すべてが喜びのエネルギーだと私は伝えています。優しさが返ってきます。ありがたいの思いが返ってきます。

そんな瞑想の時間を持たせていただいています。

田池留吉です。今のように、どんどんどんどんあなたの心を広げていってください。

これからも今までのように、あなたの心を広げていくんです。

私の世界が語っていることを心は感じているでしょう。

私の波動の世界、喜びのエネルギー。そのエネルギー、そのパワーの世界を、あなたの心の中で感じていける喜び。その喜びをあなたはしっかりと自分の中で広げていけるんです。

私、田池留吉はあなたに語ります。優しい母の温もりの中にあつたあなたに語っています。

優しい、優しい温もりの中に、あなたが本当に蘇ってきてくれたことを、私は嬉しく思います。

田池留吉、アルバートの世界とともに、喜びを広げていけることを喜んでいってください。

本当に一つの喜びを心で感じていけるあなた。喜び、喜びでこれからの時間を存在していけることを、今一度伝えておきます。

田池留吉からのメッセージ、大切に、大切にしてください。

私は波動です。波動であなたに語っています。この波動が田池留吉の世界。すべてを温もりにいざなっていく喜びのパワー。

私は喜び。私は温もり。私は優しさ。すべてが喜びへ帰る道。

自然災害によるものだけではなく、私達人間が築き上げてきた社会、世界が、あちらからもこちらからも崩れていきます。

一見すれば、そこには様々な要因が重なってということかもしれませんが、なぜそうなるのかという本当の訳は、たった一つです。

私達人間だけが、自分の本当の姿を知らずに今もなお存在しています。私達は、自分を癒し生かす喜びのエネルギー、パワーが自分の中にあることを知りません。喜びのエネルギーそのものであることを知りません。

私達は、喜びを忘れました。ありがたいの思いを忘れました。

喜びだけの私達だったのに、いつの間にか、欲の中に埋没してしまったのです。

これが私達人間の現状です。

喜びしかない世界があるなんて、全く信じられないということならば、それは、欲で塗り固められた中にあるからです。

欲で塗り固められた世界。それが、私達人間が築き上げた社会です。

どうぞ、皆さん、自分達の本当の姿を心に蘇らせていきましょう。

私達はみんな、本当の自分に出会えることを心待ちしているんです。

「私達は意識、波動、エネルギーです。目に見える姿、形が私達ではありません。」

これは、私達が、自分に伝えているメッセージなんです。

全く同じく、「田池留吉の世界」が語る、自然治癒力が語る、肉体細胞が語るということは、私達自身が語っているということなんです。

私達は、意識、波動の世界に一つだからです。

「田池留吉の世界」が私達であり、自然治癒力の世界が私達であり、肉体細胞の世界が私達なんです。

私達は、もともと同じ喜びの波動、喜びのエネルギーだけを流していました。

すべては喜びの中にあっただけです。その私達が、目に見える姿、形を自分だと思った瞬間から、喜びの波動を流すことができなくなりました。自分を見失ってしまったからです。

自分を見失った私達は、当然、さ迷い続け、苦しみ続けました。

そして、寂しい、苦しいと叫ぶ私達からは、暗い、真っ暗な波動だけが流れていくのでした。

あまりにも寂しくて、あまりにも苦しいから、私達はたまたまなく癒しと温もり、安らぎを求めました。そして、苦しみに打ち克つパワーの世界を求めていきました。

それが、いわゆる神の世界でした。私達は、自分の外に、神の世界を創り上げたのでした。

そうして、癒しも温もりも安らぎも、みんな自分の外に求めていくようになりました。

苦しみに打ち克つパワーを求め、さらに、より強いパワーを求めていくようになり、そして、そのパワーの威力を競い合うようになったのです。

そのように、求めていけばいくほど、自分がさらに暗い真っ暗

な中に沈んでいくことが、なかなか分かりませんでした。苦しいから求める、求めていけばさらに苦しくなる、この繰り返しを何度も、何度もして、私達は、今という時を迎えているんです。

そして、その中のほんの一握りの人達が、自分の心を見るということを知らされたということなんです。

**自分の心を見るということを始めなければ、何も始まりません。
私達の世界には、喜びだけしか存在しません。**

どうぞ、本当の喜び、本当の温もりを知っていきましょう。それが本当の自分の姿だと心で知っていきましょう。

**そして、ありがたいの思いが、あなたの道を開くことを信じて
いってください。**

田池留吉の肉とともに、セミナー会場で学ばせていただく時間が限られていることが現実になり、一抹の寂しさはあるものの、しかし、ふうっと思いを向ければ、そんなことは本当に微々たるものでしかありません。

私は、淡々と瞑想を重ねていけばいいだけです。

来世の私の思い、そしてアルバートの思いが心に広がっていきます。

ただ次元移行へ向けて、私は存在していただくだけです。心に向けていただくだけです。ともに、ともに心に向けながら、250年、300年の時をかけて進んでいける喜びを感じます。

そして、本当にありがとうございます、ただただありがとうございます

ざいますの思いで、残された学びの時間、私は喜びで通過させていただきます。

本当に、今世学ばせていただきました。そして、これからも私は私の勉強を通して学んでいきます。学んでいけることが私の喜びです。

私は波動ですという田池留吉のメッセージ通り、私は、私の意識の世界はその波動、エネルギー、温もり、優しさ、喜びを心に広げ、瞑想を重ねていけることが幸せです。

最後まで読んでいただきまして、ありがとうございます。

本書は、「自然治癒力を高めて、あなたの身体を元気にしましょう。あなたの心を元気にしましょう。そのためにはこのようなことをしてください。このようなことを心掛けてください」といった内容のものではありません。

私は、自然治癒力そのものに、あなたの心を向けていただきたいと思いながら、綴ってまいりました。

本書は、頭で理解して頭で納得するのではなくて、心で感じて心で納得していただける内容に仕上がっていると私は思っています。

本書を通して、あなたの心に何かを感じていただければ嬉しいです。

あなたの心…、そうです。心で感じていくことをどうぞ、大切になさってください。

自然治癒力の世界は目に見えません。しかし、あなたの心で感

じられるんです。感じられる心をあなたの中で育てていきましょうということなんです。

目に見える世界と目に見えない世界…。

書かせていただいたように、これから目に見える世界は、色々なところからその形を崩していきます。何でそうなるのか、それは、あなたの頭では絶対に理解できないでしょう。

しかし、現実には起こってくるんです。必要だから起こってくるんです。形の世界が崩れていくことが私達には必要なんです。

そうなることで、私達は自らを促していきます。だから、色々なところから、繰り返し崩壊していきます。そして、その崩壊の規模も大きくなっていきます。

自らを促し、自らを気付かせるために、起こってくる様々な現象。それらをどのように受け取っていけばいいのか、いくべきなのか。

それは、すべてあなたの心の中から回答が得られるはずなんです。

私達人間は、頭を駆使し、頭を誇っています。過去からのデータを分析して、未来を予測しようとします。

しかし、私達の体験、経験、実績、そういったものは全く役に立たないという局面を私達は迎えていきます。

嘆き悲しみ苦しむ中から、私達が立ちあがるには、まず間違った方向を向いていることに気付いていかなければならないでしょう。それから、その方向を本来あるべき正しい方向に向けていくことが待たれるのです。

それがこれからの私達がしていかなければならないことです。

間違った方向、そして、本来あるべき正しい方向、これをそれぞれが自分の中で見極めるために、これからの時間がそれぞれに用意されています。どうぞ、そのことを喜んで自分の中で受け入れていきましょう。

最後に、もう一度、本の見返し部分に綴った三行を掲載します。

自然治癒力は喜びのエネルギーです。

私達も喜びのエネルギーです。

だから、私達は自然治癒力そのものなんです。

私達は、自分を生かす喜びのエネルギー、自分を癒す喜びのエネルギーです。どうぞ、自分の心を見て、本当の自分と出会って行ってください。

「私の中に、田池留吉の世界がある。いつも、いつも、田池留吉、アルバートの意識を感じている。」

この一点の確立のために、私は今の肉を持ったことを自分の中で確認する毎日です。

日々の瞑想で、私の心に安心感が広がっていきます。心を開ける喜びが広がっていきます。

この安心感の中で、この喜びの中で、私は、田池留吉、アルバートを感じながら存在していけばいいことを知って、このように

肉を持って学ばせていただいたことに本当に感謝しかありません。

自分の心を見る、自分を感じる。喜びの中で、温もりの中で、自分を感じ、そして、自分を解き放していく幸せの中にありました。ありがとう、本当にありがとう。

私をしっかりと支えているのは、母の意識です。たくさんの、本当にたくさんの母の意識です。

たくさんのと言っても数はありません。母の意識、母の思い、温もり、本当の私、田池留吉、アルバートの世界、喜び、様々な表現はあるけれど、それらは、私の中ですべてが一つ。

私は、心を逸らすこと^そはない。軌道を外れることはない。私はその中にあるのだから。

だから、瞑想をすれば、私の中に安心感が広がっていくんです。私は、いつも母の思いの中にいます。私は、その中で、自分を見つめていける喜びがあるんです。たまらなく嬉しいです。

温もりが広がっていきます。優しい思いが心に広がっていきます。

異語が飛び出してきます。アルバートと呼んでいます。

今、肉を持ってこの体験ができることが、ただただ嬉しいんです。瞑想の時間と空間はなくてはならない大切な、大切な時間と空間です。

こんな環境を自分に用意していることにただただ感謝です。

身体も元気。その肉を通して、可能な限り私の今世の勉強を終えて帰りたいと思います。

「可能な限り、それは決して欲ではありません。すべては私の予定通り。来世の準備のために今世を用意した私の予定通り。」

私が私にメッセージを伝えています。

瞑想に瞑想を重ねていけば、瞑想でしか分からないことが分かります。

私の中が、どんどんお母さんと呼んでいて、待っていた、待っていた、そんな思いがどんどんどんどん響いてきて、心に向けることが本当に嬉しいです。

今、肉を通して、自分の世界を感じていることがたまらなく幸せです。

温もりが湧いて出てくる、宇宙と思えば嬉しいし、次元移行だと伝わってきて、本当に嬉しいです。

瞑想をする時間を持つこと、持てること自体が、もう幸せなんですね。

私を思い、母を思い、田池留吉、アルバートを思う。境目がなくて、みんな、みんな嬉しい。思えば嬉しい。

こんな世界と出会えたことが、奇跡に近い。と肉は思っています。

目を開ければ、形の世界がここに 있습니다。その中で話をしたり、話を聞いたり、食べたり、笑ったり、パソコンを見たり、テレビを見たり、横になったり、忙しく身体を動かしたりしている私があります。形の中で漂っている私があります。そう、肉は適度に漂っていればいいだけです。

そう私が思えるのは、目を閉じて、思いを向けたときに広がっていく私が私で、ありがとう、嬉しいと言っている私が私だと知っているからでしょう。

「心が大きく揺れることはない。落ち込むこともはしゃぎ過ぎることもない。淡々と時間を刻み、そして、その中で瞑想をする時間をしっかりと確保する。喜びと温もりの世界を存分に広げていける時間を持ちながら、今世の時間を終えていく。」

次元移行に照準をきちんと合わせた意識の世界の通り、この肉は動いていきます。

自然治癒力をテーマにした本が、近々発刊される予定です。

私は、当初、その中で磁場ということについて、少し触れる予定をしていましたが、今回は見送っています。

しかし、いずれまた、磁場ということについて書いてみようと思っています。

磁場を活用した治療方法が研究中だということで、ひと月前くらいに磁場というものに心を向けたことがありました。

その時、本来の自分達は磁場だ、本当の自分を知っていけば、自分達の中に磁場があるという思いを受けました。

もちろん、その磁場というのは測定することはできません。一般的な磁場というのは何らかの方法で測定できます。数値で確認できます。

しかし、自分の心、自分の意識の世界が受け取る磁場は、自分の心でしか分かりません。自分の心が測定するんです。その学び

というか、それを私は私の勉強として、これから進めていく予定をしています。

もちろん、田池留吉の磁場です。田池留吉の世界に心の針を向け、合わせ、そして、田池留吉の磁場、つまり、そのエネルギー、波動、パワーを私の心で測定していく学びです。私はその勉強を通して、さらに意識の世界のバージョンを上げていくでしょう。

心で感じる世界です。心でしか分からない世界です。肉を同一空間に置かなくても、田池留吉の磁場を感じ、田池留吉の磁場を学ぶ、そして、自分の中の磁場を高めていく、私はその方向に自分の学びを進めていきます。

思うだけで嬉しいです。今世の肉を通して学んだことを、250年の間、自分の中で育てていき、そして、来世の出会いから一気に進んでいくことを思うと、私はただただ嬉しい。

田池留吉の磁場、私は、学ばせていただきます。

田池です。あなたが、私に心に向けていけばいくほど、どんどんあなた自身を感じていきます。それは喜びです。

私は、超、超、超、超大きな闇と申し上げました。しかし、闇とは喜びなんです。あなたの中にあるエネルギー、すべては田池留吉、アルバートと一つ。心で感じていく喜びです。その喜びを、私はあなたに心よりさらに感じていただきたい。その思いから、自己供養というテーマで本を出してほしいのです。

あなたの中に語りたいあなたがあるんです。あなたはまだまだそれを出していません。あなたの中から出てきます。さらに深

くあなたが出てきます。

今、あなたが飛鳥の時代に思いを向けて、感じているあなたがありますね。そこから始まります。そこから始まって、あなたの中の心が語り出すんです。意識の世界が語り出すんです。

肉のあなたは何も分からないと言ってもいいでしょう。しかし、心が語ることは止めることはできません。肉のあなたはそれを素直に出していきなさい。田池留吉からのメッセージです。

人の人生を一掴みにして狂わせていった過ちを犯してきたと心から出てきます。何の容赦もなく、冷酷に顔色一つ変えず首を刎ね、そして、神の生贖いけにえにしてきたそんな自分を感じます。

すべては神のお告げ。そこから発している私の思いがあります。神とはいったい何だろうか。ずっと私の中で感じてきました。

むごいことをしてきました。冷酷なことをしてきました。血も涙もなく本当に心は殺人鬼でした。母の温もりに通じ合わなかった心。その心はどんなことでもします。

中から聞こえる声によって、私は動かされていったんです。それが私の神への忠誠でした。愚かしいことを繰り返してきました。

私は自分の心の中にどんなに凄まじいエネルギーを感じても、それが私自身だったと本当に愛おしく受け入れる心の準備があります。

準備というよりも、それが私だったんです。私は、私を心から受け入れることができます。そんな優しく、広くて、温かい私を感じさせていただきました。今世の肉を通して知りました。だ

から、私は、田池留吉にさらに心を向けてまいります。

田池留吉というのは、本当の私です。真実の世界を知っていた本当の私です。 その私に大きくずれた私。その私を感じ知り、受け入れて、そして、本来あった私に戻っていく喜びを心から感じられます。それを一つ一つ、さらに一つ一つ体験させていただきます。

自己供養 塩川香世

あなたはなぜ生まれてきたのですか。あなたはなぜ今ここにいるのですか。

私は、瞑想をするたびに、このことを自分に問いかけてきました。

一つの肉を持った私がここにいます。私は今の社会の中で生活をしています。しかし、瞑想をする時間の中で、私はなぜ生まれてきたのか、なぜ、今、ここにこうしているのか、なぜ日本の国なのか、今世の転生がなぜ日本の国だったのか、田池留吉との繋がりはどういったものなのか。

そんなことを思いながら、ずっと瞑想を続けてきました。

今は、私の中で答えが出ています。

私は私を見つめ、私に本当のことを伝えるために、そう、自分を自分で救う、本当の私を伝えるために、ここにこうしていることを、私は心の中で知りました。

今世私の自己供養は始まりました。

だから、私の今世の人生は幸せな人生です。

田池留吉との繋がりが分かりました。田池留吉という一つの肉、その意識。私達が自分の心の中から呼び寄せた意識の世界でした。それがこの三次元で肉という形となって実現したのです。

私は特に自分の中のアマテラス、そのエネルギーを本当の自分に誘導したかった。いざないたかった。本当の自分を伝えたかった。

なぜならば、アマテラスの心のままでずうっと転生をしてきた私だったからです。

言葉にすればアマテラス。その意識の世界は己を忘れ去った、狂いに狂ったエネルギー、闘いに明け暮れたエネルギー。それを私はアマテラスという言葉で表現しています。

私の中の凄まじいエネルギーを今世こそ、しっかりと自分の中に受け入れたかったです。

私はそのアマテラスの心を、一つの時代を通して、もう一度振り返ってみようとしています。

私の今世、この日本の国に、さらには大阪（難波）の地に生を受け、育ち、ここを生活の拠点としていること、これまでに奈良（大和）の地をたびたび訪れてきたことに、大きな意味がありました。

心の中のアマテラスは伝えてくれました。

凄まじいエネルギーながら、真実の世界を求めてきたエネルギーとともに、この日本の国で肉を持つことを果たしてくれたと。

それが意識の流れでした。それが田池留吉の世界でした。

アマテラスの心を感じています。アマテラスの喜びを感じています。

心の中にアマテラスを呼ぶとき、アマテラスの喜びを感じます。

飛鳥の時代に心を向けるとき、アマテラスの思いが広がっていきます。アマテラスの心の中に、私達は、嬉しい、ありがとう、喜びと、思いが広がっています。

「本当に飛鳥の時代のことを、私達は語りたかった。

私達は苦しみの中に沈んできたけれど、今この時間の中で私達の心が解きほぐされていきます。」

血で血を洗う闘いの中で、アマテラス同士が傷つけあってきた。その愚かな裏切りを、もう二度と繰り返すことなく、私達は本当の平和を望んできたけれど、なかなか人間の心の中はそうたやすくは変わらないことを、今現在の時間の中で感じさせていただいています。

しかし、アマテラスは、今世のこの時を境に、喜びへと転じていった事実が、これからこの日本の国を様変わりにしてまいります。

本当の温もり、本当の喜びを知った心の中で、自分を紐解いていく喜び、それは、それぞれの心の中で感じていく以外に何もありません。

ただ、このようにすれば、その道を自分の中で見つけ、一歩足を踏み出すことかできることを、私は伝えたいです。

真実の自分に歯向かい、手向かい、闘いを挑んできた心の中を見つめるために、今という時があることを知ってください。

どんな環境の中においても、自分の心の中から闘いのエネルギーを流していることを感じていってください。

安らかな人生、喜びの人生を歩んでいる人など一人もいませんでした。

心の中で、自分をしっかりと見つめなければ、そんな人生は歩めないことを、私の心は語ってきます。

「真実を知りたい」その思いが田池留吉という肉を通して、真実を私達に知らしめるような運びとなったことを感じるにつけ、私は自分の心の中をその方向にしっかりと合わせていだけ、それだけだと感じています。

ああ、瞑想をする時間、心を向ける時間、自分の今の生活の中に可能な限り、その時間を確保していくことが私の唯一の喜びです。

自己供養は、あなたが肉を持っていても持っていなくても、ずっと続けていく作業だと、私はあなたに伝えました。あなたはそれができるんです。

心の針を真実の世界に向けて、喜びと温もりを感じる中で、自分を紐解いていく喜びを感じていけるんです。それが、自分を救うたった一つの手立てです。

肉のことは程々にしていきなさい。あなたの生活ができるならば、あなたの肉の仕事から身を引き、自分の心の中と対話する時間を集中的に持っていくことです。

私はあなたに伝えます。これからの日本の国の様子はすでに伝えました。それが、あなたの中にしっかりと現実のものとして広がっていくでしょう。

それを形にするかどうかは別として、あなたの心の中に感じているものを、あなたはしっかりと自分の中で広げ、そして、あなたはあなたをしっかりと見つめていてください。

心の中に喜び、温もり、本当の自分の世界を広げ、あなたはあなたの中をしっかりと見つめていくんです。

自己供養があなたを喜びへ、さらに喜びへといざなっていきます。

自分を供養する喜びを心に感じ、あなたの中に、ただただその喜びが広がっていくんです。

あなたがあなたを感じていけばいくほど、喜びが広がっていきます。

心に向けるだけでいいんです。私達は喜びでした、温もりでしたと心に向けるだけでいいんです。

心に向けていけば、どんどんどんどん喜びの自分が目覚めていくんです。それが心を通して、エネルギーを発していきます。

宇宙へ喜びのエネルギーを発していく、その放射塔になってくださいと心より伝え続けてきた私の思いを、あなたは素直に受け取っていただき、あなたの中で実行していただいています。

どんどん自分を見つめていきなさい。喜び、温もりの中にあった自分を見つめていくんです。

喜びで、自分を語りなさい。あなたの中にはすごいエネルギーが蓄えられています。しかし、その凄まじいエネルギーは、ともに本当の喜びをこの宇宙に流すエネルギーへと変わっていくんです。

これから250年の間、あなたはその仕事をなさるでしょう。

今世、肉を持って自己供養を始められました。私、田池留吉の心に思いを向けてください。どんどん心から語ります。あなたの中には優しい、温もりが広がっていくでしょう。

例えようもないほどの喜びを感じ、その喜びがまたあなたの中を目覚めさせていくのです。

田池留吉の世界を心で感じて、感じて、その肉を終えなさい。

私は、あなたの中からいつもこのように伝えています。

肉があるときは、肉を通して喜びを感じていくんです。自己供養を通して、喜びを感じていくんです。

そして、肉が無くてもその喜びはあなたの中に広がっていきます。あなたの中にある喜びが、私、田池留吉です。温もりが田池留吉です。真実のあなたに出会えた喜びを今、伝え続けています。

桜井から天理まで、何度も、何度も歩きました。いわゆる山の辺の道。私は何度も、何度も歩きました。あの二上山を眺めながら…。

私の中に飛鳥の時代の頃を思い出すとき、妙に懐かしい、本当に懐かしい思いが広がっていきます。懐かしい…。

懐かしいというのは、良い意味でも悪い意味でも懐かしいということです。

大和は私のふるさと。大和朝廷は私のふるさと。私が権勢を振るった時代があります。

大和朝廷、あそこに都があったとき、私は神のみ仕えとして政

治に大きな影響力を与えてまいりました。

私は、毎夜、毎夜、身体を清め、心を清め、そして、私は心に向けていました。どこへ心に向けていたか。神、神、神、神、神…。はい、私の崇拜してきた神、それはアマテラスでした。

アマテラスのほうに心に向け、私は毎夜、毎夜、神からのお告げを聞いておりました。そのお告げにより、私は大きな支配力を持ってきました。私の申し上げることが、その当時の政を牛耳^{まつりごと}っていくのでした。

私は、身も心もアマテラスに捧げてきました。すべてはアマテラスの御許で、私は、この命さえも捧げてきたつもりです。

私の出す預言は、大きな支配力を生んでまいりました。

当時の女帝を牛耳る力。その背後から牛耳る力。その力こそが我の力なり。アマテラスの力なり。私はそのように政を牛耳^{まつりごと}ってきました。

私がおそのような地位に昇り詰めるまで、どれだけ苦しくて辛い時間を過ごしてきたことか。

耐えがたきを耐え、忍びがたきを忍んできた自分。そしてまた屈辱の中に身を沈めてきた自分も感じます。

私の中に、巫女としての悲しくて辛い、本当に悲しくて辛くて寂しい思いが詰まっておりました。

母を慕い、母の懐がまだ恋しいそんな小さな時から、私は、大変厳しい訓練を受けたことも思い出しました。

厳しかったです。母にとって、私は、母の子ではなかった。

あなたは、このお方のお力になるんですよ。あなたの成長がこの方のお力になるんですよ。

母はそうして、私を小さな私を置いて、姿を消しました。

私は母が恋しかった。恋しくて、恋しくて、なぜ私を一人にしたのか。母を恨みました。恨んで、恨んで、恨んで、そして、私は、この心の中に恨みを残したまま、その片一方で、母を恋しく思う思いを自分の中に抑え込み、閉じ込めながら、厳しい訓練に耐えました。

そんな巫女の思いを、私の一つの転生ですね、そんな思いを今、振り返っています。

私はその心を、この田池留吉の学びの中でしっかりと見つめてきました。巫女として、何度も転生をしてきました。巫女として転生をしてきた私を、辛くて寂しくて苦しい巫女の思いを私の心の中で、ずっと見てきました。

その巫女の当時の思いに心に向け、私は、これまでにその思いをしっかりと自分の中で包んでまいりました。

そんな私がたくさんあったことを知り、たくさんの私に母の思いを伝えてきたんです。

母は私を捨てたのではなかった。私の心を見なさいと言ってくれたことを母の思いとして受け取りました。心で受け取ったんです。

そのとき、私の中に、母を恨む思い、母を切り捨てる思い、母恋しやと嘆き悲しむ思いは、みんな自分の中で温もりに帰っていくことを知りました。

今、もう一度、あの飛鳥の時代に生きてきた私を、心に感じ広げ、その私を語っていこうと思います。

学び始めて数年の頃の私とは違っています。

当時の私は、苦しい中で、ただ苦しい私を知っていただけでした。

今は違います。

私の中に、温かい、温かい、優しい、優しい温もりの私を感じ、そして、それが私だと知り、その私が私の中で自分を語る喜び、その喜びを広げていける違いがあります。

だから同じことを語っても、私の中は喜びなんです。

お母さん、ありがとうございました。心から、たくさんの私がお母さんに伝えていきます。

母を恨み、呪い、そしてまた、母恋しやと嘆き悲しみ、しかし、すべては狂ってきた私を知っていくために、母が演じてくれたことでした。

その思いに触れたとき、私は、ただただありがとうございます、そんな思いが広がっていくのでした。

「倭は国のまほろば たたなづく青垣 山隠れる倭しうるはし」
学校の教科書に出ていたこの歌が私は好きでした。

倭は国のまほろば…歌碑を眺めながら、心の中でその文言を繰り返しながら、そして、二上山を眺めながら歩いていた頃の私を思い、そして、あの飛鳥の時代を思い瞑想をしています。

ようやく、ようやく、今世、飛鳥の時代を自分の中で語ることができるようになったことが、ただただ嬉しいです。

自分の中で喜びで紐解いていけるように、学びに集う前より、アマテラスの原点地の飛鳥一帯にこの肉体を運んでいました。

陽の光を浴びて遠くに霞む二上山を目にしなが、当時は、あの山の向こうに目指す相手がいようとは、思いも寄りませんでした。

血は水よりも濃し。その思いを心にたたき込みながら、飛鳥の時代を生きてきました。アマテラスの冷酷さも、厳しさも、寂しさも、みんなみんなあの飛鳥の地とともにありました。

今、飛鳥と思い瞑想をすれば、その時代に生きてきた私に喜びと温もりを伝えることができます。

心に響いてくる。私は私が愛しい。アマテラスが愛しくて、愛しくて、苦しみの淵に沈んでいた私の中に、今世の肉を通して、こんな思いを広げていけることができるなんて信じられないくらいに嬉しいです。

そして、また嬉しさとともに不思議を感じます。不思議です。

田池留吉氏の住まいが、近つ飛鳥と呼ばれている一帯。

私が深く関係してきたのは、大和飛鳥。遠つ飛鳥と呼ばれている一帯。

そして近い、遠いという基準は、当時、都があった難波宮だと言われている。それは、私が今、居住している一帯です。

近つ飛鳥と遠つ飛鳥。そして、二つの飛鳥の間に二上山があったのです。

当時の政には、^{まつりごと}祀りごとが絶対に必要でした。

祀りごとが中心でした。吉凶を占う。呪術。その力。神のお告げ。民を治める力は、アマテラスでした。

アマテラスの御許に一心に心に向け、国の平定を祈ってきました。

豪族が乱立する時代。昨日の友は今日の敵。いいえ、すべてが敵。何時この首をかき切られるか。

私は、本当はこんなことはしたくはなかった。私は、もっと、もっと普通に暮らしたかった。だけど私には神の声を聞く力があつたんです。飛鳥の時代に、私はその力を見こまれました。神の声を聞く者として、私は厳しい訓練を受けてきたと申しましたが、その通りです。

しかし、私は、ちっともそれを喜びとはできなかつた。人々からどれほど称賛を浴びようとも、私の心の中に、寂しさと空しさが広がっていくだけでした。

私は生きる屍でした。心の中に母を思う思いを切り捨てた私は殺人鬼となり、すべてを牛耳ってまいりました。この心の中を見透かされてはならぬ。私は、神の声を聞く素晴らしい人物であらねばなりませんでした。

心が休まることはなかつた。いつも、いつも、私は自分の心を張り詰めた状態にしておりました。心の中に安らぎはありませんでした。

私の末路は哀れでした。心安らかに眠る日は少なかつた。夜な夜な私は、心の中をかき乱されておりました。あれほど、神、神、神と求めてきた、忠誠を誓った私なのに、この心の中に吹きすさぶ寂しさ、恐怖、底なし沼のような心は、誰にも分かってもらえ

ず、一人ひっそりと息を引き取りました。

ああ、お母さん、苦しいです。悲しいです。お母さん…。

私は、みんなが寝静まった頃、母を思い、母を偲び、息を殺して、声を殺して泣き続けました。この手に、どれほどの権力を握り、財宝を手にし、人々の称賛を浴びようとも、私の心は苦しみの方を回っておりまして。母を呼べども、呼べども、母の思いは遠くにありました。

寂しい、寂しい、苦しい、これが神を求め、神に忠誠を誓った私の末路です。

私は私を淡々と語ります。そして、今、私は私に伝えることができます。

飛鳥の時代に生きてきた私の心に、今の肉を通して、田池留吉の世界を伝えることができます。

田池留吉を思い、飛鳥を思います。私の心の中に生きてきた飛鳥の時代を思い、その思いとともに、私は今、瞑想を続けています。間違ってきた自分を思い起こし、私は私に伝えています。

私には、自分が哀れだったとか、こんな自分が哀しくてたまらないとか、そういう思いはありません。本当のことを知らずにきた自分に、今、自分自身が、本当の温もりだとか安らぎを伝えていけることが、それだけがただただ嬉しくて幸せなんです。

「私が今のあなたのように、心の中からお母さんと呼んでいた

ら、私の生きている時間は変わっていたでしょう。

私は、心の中に母を思うことなく、この世を去りました。

母を恋しいとは思いました。母を思い、泣き続けたと私は語りました。しかし、私は母を恨みながら、母を呼び続けた。私のこの心の中から、お母さんと、ただひたすらに、母を呼ぶことはなかった。

今、あなたを通して、私の心の中に響いてくる思いが、そのことを私に伝えてくれました。

私は、母を恨んできました。恨みながら、お母さんと思いつけてきたのでした。」

飛鳥の時代に、巫女として肉体を持ってきた私が、今の私に伝えてくれた思いです。

私は私に本当のことを伝えたいです。温もりと喜びを伝えました。

「あなたの思いを受け取っています。私は今、幸せです」と伝えました。

そうすれば、私は私の中で気付いていくんです。間違ってきたと気付いていくんです。その気付きは、本当の優しさと温もりが促すものなんです。

言葉ではありません。そうして、自分の中が、一つ気付き、二つ気付いていくことが喜びに繋がっていくことを体験しています。

私は、今、死んだ自分と語っています。一つの時代に生きてきた私の心を、今、私は自分の中で受け取り、そして、私が今、心

に感じている世界を伝えます。

私の中に、過去、肉体を持ってきた私がたくさん、たくさんあるんです。私は、その私自身をしっかりと感じて、自分が今、広げている世界を、意識の世界の中で伝えています。

田池留吉の心を受けながら、淡々と語ってくる私を、淡々と受けていける私があります。

過去の苦しい私を心で受け止めていくことは喜びです。

温もりが自分だと、喜びが自分だと本当に知ったから、過去の自分も未来の自分も喜びで語れるんです。語れることが喜び。それを聞き受け止めていけることが喜びです。

日々の忙しさ、また雑事の中では、決して本当の喜びにも本当の幸せにも出会えません。

自分の中と対話する時間をどれだけ持てるか、それがその人の人生の幸、不幸を左右していくと言ってもいいでしょう。

自分の中を変えていく、つまりは、自分の中のたくさんの自分に本当のことをどれだけ心から伝えることができるか、そのために、そのためだけに、今の時間があることを知っていけば、自ずと身の処し方が決まってきます。

たくさんの自分を一つ一つ喜びへ帰していくということは、数の上から考えてみれば気の遠くなるようなお話です。しかし、例えば、一時代に生きてきた一つの過去世を、本当に今、心で受け止めて、その自分に本当のことを伝えることができたならば、そ

の事実は、同じように苦しみ喘いできたたくさんの私に一瞬のうちに伝えることができる、それが自己供養のすごさです。意識の世界のすごさです。

私にとって、一時代というのが、まずは飛鳥の時代ということになるのです。

私は、あの飛鳥の時に自分の中に作り上げてきた苦しみ、神を間違っているとらえてきた愚かな自分と対面していこうと、今世の時間を着々と整えていたことを感じてきました。

すべては、そこに繋がってきたことを、学びと出会い、田池留吉氏の指し示す方向に自分の学びを進めていった結果、そう確信しました。

まずは飛鳥でした。まずは私の中のアマテラスでした。

すべてはここにあったことを私の心の中から響いてきたときには、本当に何も無駄なことは何一つとしてなかったと、今世の私の人生を思わざるを得ませんでした。

アマテラスを自分の中で受け入れて喜びへと帰していったこと、それは大きな出来事でした。本当に大きな出来事でした。だからこそ、本当に心に広がっていく田池留吉の世界でした。

だからこそ、飛鳥の時代を思い瞑想をする喜びは、例えば、イエスや仏陀の時に肉体を持ってきた私を思えば、同じように、私の中でずっと喜びが広がっていくのです。自己供養が簡単に楽しくできるのです。そのために、今世の肉があることが本当に幸せです。

私には、もう人生は色々ではなくなりました。人生は一つでした。文字通り、私の人生はあと一つです。その人生をより幸せに、より喜びへといざなうために、今世、私は喜びで自分を学んでいます。私には学んでいける時間がまだ用意されていることが本当にありがたいです。

私はすでに色々な人生を生き尽くしてきました。色々な役柄を演じてきた。

盗人、殺人鬼、高僧名僧から女郎等々、貧富、身分等の隔たりこそ大きく違う数限りない転生でしたが、たった一つ共通してきたものは、何も知らない自分だったということでした。

生い立ちや環境等がむごたらしいのではなくて、本当の自分を捨て去ったことが地獄の苦しみでした。

姿、形は麗しくても、また、たとえ殿上人になろうとも、大富豪となろうとも、そして、神として崇め奉られても、本当の自分を知らずにいることは地獄の中にいるということでした。

明るくて安らいで温もりのある本当の世界を心で知ったからこそ、地獄の暗さ、恐怖、冷たさが心で分かるのでした。過去と同じ過ちは絶対にしない、それが自分に対する限りない優しさだと私は思っています。

地球上に転生をしてきた時間からすれば、20年足らずの今世の学びの時間はあまりにも短いです。

超、超、超、超大闇の意識の世界を抱えてきた私に、本当の自分を伝えることができたことは、ほぼ奇跡に近いことでした。

今世、狂うことなく今まできたことに心から感謝します。

十二分に学んでいける環境設定があったればこそその偉業だと私は思っています。偉業…、私は決して大げさではないと思っています。

私は、心に向ける、合わせることを知りました。

「死ねば自分一人です。肉体が無くなった状態の時に何も思えなくては、やがては自分の重圧に押しつぶされていきます。

思えない…。自分が温もりであり優しさであり喜びであることを思えない。だから、自分に心に向けられない、合わすことができない。だから自分の中から出てくる凄まじいエネルギーに一気に飲み込まれていく。」

死んだ私が私に伝えてくれたことでした。

私は私の思いを受け取りました。だから、今世の肉を通して、自分に心に向ける、自分を思うことを学ばせていただきました。

田池留吉氏がその肉を通して、私に心に向けなさい。向けてごらんと言ってくれました。それは、田池留吉氏の肉ではなくて、その肉を通して田池留吉の意識の世界に心に向けなさい、向けてごらんということでした。

もちろん、最初は、田池留吉の世界に心に向けてみても、出てくるのは、闇、闇、真っ黒闇で、苦しい自分ばかりでした。

しかし、やがて、田池留吉の世界を通して自分を感じていることを心で知った私でした。それは言葉にはならない例えようもない喜びでした。

自分を感じ自分を知っていく喜びが広がっていくにつれて、苦しみは苦しみではなくなりました。闇は闇ではなくなりました。

20年足らずの学びの時間の中で、私はその喜びを重ねてきました。

そして、今、さらにそれを完成度の高いものになっています。

私の中の信、田池留吉の世界を、私自身を信じていく信、それを、瞑想を重ね深めていくこと、自己供養を通して学ばせていただいています。

「自分のために生きたかった。

民の幸せ、国の平定を祈願、祈祷してきた私でした。疫病が蔓延し、その禍を断ち切るために、私は一心不乱に祈祷し続けてきました。

そんな私なのに、たった一人の母親さえも助けることができなかった。

はやり病であっけなくこの世を去ったと風の便りに聞きました。痛恨の極みでした。」

今日の瞑想で、心に響いてくる思いでした。

「自分のために生きたかった。どうすることが自分のために生きることなのか、分からなかった。」

遙か昔の飛鳥の時代に心の中に叫んできた思いを、今世までずっと持ち続けてきました。

自分を思って瞑想をすれば、今しかないことが分かります。

過去に生きてきた自分も未来に生きている自分も、今の自分が

どんな状態であるかを精査していけば、そこに、過去の自分も未来の自分も見えてきます。

精査するということは、本当に自分は今、幸せであるか、本当の喜びを知っているか、温もりの中にあった自分だと本当に心で知ったか、それらを一つ一つ自分の中でチェックしていくことです。

今、自分の中でそれらがクリアできているならば、過去も未来もクリアできているんです。自分の過去からも、そして、自分の未来からも、喜びが伝わってきます。今しかないからです。過去も未来もない、意識の世界は今しかないからです。

過去の自分が苦しいと言うならば、今の自分は、まだまだ苦しみの中から自分を解き放していないことになります。未来の自分が苦しいだけならば、それもまた同様です。

だから、今、肉を持っている今、できることをしていかなければならないんです。それは、ともにお母さんを思って瞑想をしよう、素直に田池留吉を思って瞑想をしよう、そう自分に呼びかけていくことです。

そうしていくとき、「自分にそのように呼びかけていける絶対なる信があるか、優しさがあるか。欲ではなく、ただひたすらに自分に言える信があるか、優しさがあるか」、そこへ行き着くと思います。

そして、きちんとしてしっかりと瞑想をする時間を、今の生活の中で確保する必要があることを痛感していきます。

瞑想を重ねていけばいくほど、瞑想をする時間を確保することがいかに大切であるか、そして、ただ時間を確保するだけではな

くて、しっかりと瞑想をしていこうと思えば、色々な面において余裕がなければならぬことも感じます。

ゆったりとした中で、ゆったりと瞑想をしていけば、ともに母に向けて、そして、田池留吉の世界に心を合わせていける喜びと幸せだけが広がっていきます。

私は、まさに、飛鳥の時代の心の叫び、「自分のために生きたかった」を今、現実のものとしています。自分のために生きる喜びと幸せを味わい、それを私に伝え、喜びと幸せを共有しているのです。

「私は、何とちっぽけな心で生きてきたのか。ちっぽけな世界を大きな世界だとしてきた心でした。今、私に響いてきます。私の中に響いてきます。」

「あなたの世界は、そんなちっぽけな世界ではありませんよ。どんどんどんどん広がっていくんですよ。はい、こちらのほうに心を向けてごらんください。はい、そうです。あなたの中に、もっと、もっと大きく広がっていく世界があるでしょう。安らかな柔らかな中にあなたはあったんですよ。はい、もっと、もっと心を広げて、もっと、もっと、こちらへ心を向けてごらんください。はい、あなたの中に優しい、優しい母の思いがあったんですよ。お母さんはあなたをいつも、いつも抱き抱えてくれていました。はい、そうです。はい、はい、そうです。もっと、もっと心を向けてごらん。」

「私の中にそのように伝わってきます。私は本当に小さな、小さな世界の中で生きてきたんですね。はい、はい、分かります。嬉しいです。今、そんな自分を感じています。ああ、心の中に喜びがどんどん伝わってきます。温もりがどんどん伝わってきます。はい、ありがとうございます。」

私の中にあっただんですね。私は自分を小さな、小さな中に閉じ込めてきました。暗くて苦しくて寂しくて、とても不安で恐怖で、そんな中に私はずっとありました。ああ、嬉しいです。今、私は長い、長い時を超えて、心に感じさせていただいています。

はい、ありがとうございます。ありがとうございます。」

私は飛鳥の時代に生きてきた私に、ずうっと心を向けています。飛鳥が大好きでした。飛鳥は私のふるさとだと、私はずっと、ずっと思ってきたんです。そして、今、この肉体細胞を通して、今という時、私はその大好きな、大好きな飛鳥に心を向けていけるようになりました。

嬉しいです。田池留吉との出会いがあったからです。

自分の中に本当の温もりと優しさがあったことを伝えてくれたからです。私は、今、自分にその思いをしっかりと、さらにしっかりと伝えていきます。私の中の苦しみが本当に和らいでいることを感じています。

私は私の肉体細胞を通して、波動の世界をさらに学んでまいります。

私の心は、田池留吉の世界から流れてくる波動をより正確に受け取っていきます。

そしてそれが、この宇宙に流れていくのです。宇宙が一体化していく真なるパワーの世界を、私はさらに学んでいきます。

私は、今、自己供養という作業を通して、さらに自分の心を見つめています。もちろん、これまでにその作業は私の中で進めてきました。

そして、私は、今、それをさらに深く自分の中で進めていき、田池留吉の波動、その真なるパワーを私の心は受けていくのです。

田池留吉の世界、そこから流れてくる波動の世界を心はさらに受けていきます。波動を高めていきます。

田池です。

ともに、ともに存在していく喜びを、肉があってもなくても、ともに、喜びを感じてまいりましょう。

「私の中に田池留吉、アルバート」。あなたがそのように語っています。

「あなたの中に、田池留吉、アルバート」。それだけが私達の真実です。

これからさらに感じていくであろう**田池留吉の磁場**に心を向けてみます。

私の中の喜びと温もり。田池留吉の磁場を感じるにより、

その層が厚くなることは確かです、喜びと温もりがさらに大きく厚く深くなっていきます。

田池留吉の磁場の中に私はすっぱり収まっていく喜びです。

はい、私は田池留吉の磁場の中に、すでにあります。

はい、すでに私の中でさらに田池留吉の磁場を学んでいける喜びを今、感じています。

私の中を一つにして、田池留吉の磁場をさらに深く感じてまいります。

磁場は、私の心が測定するんです。私の心で感じていく世界です。

磁場の喜び、磁場の温もり、すべては私の中で感じていきます。感じていけるんです。

すごいパワーが心の中で感じられるでしょう。

すごいエネルギー、すべてを生かすエネルギーをさらに、さらに感じさせていただきます。

田池留吉の磁場に思いを向けた時、私は肉体細胞の喜びを感じます。

肉的に言えば、肉体細胞が磁場のエネルギーを吸収して、活性化されていく感覚です。

例えば、例えばの話。

今、私の肉体細胞のどこかに異常があって、この田池留吉の磁場の中で、私自身が心の針をピッタリと向けていけば、肉体細胞は間違いなく回復していけようという感じでした。

しかし、これはあくまで例えばの話で、今の私には現実味があ

りません。ただ、少し前に、私は、自分について死ぬまで大病はしない、私はおそらく死ぬまで元気だろうと言ったのは、私自身、すでに田池留吉の磁場にすっぽりと収まっているからなんだと分かりました。

田池留吉の磁場に心を向け合わせて、いつも喜びを感じていれば、肉体細胞に異常をきたすことはないでしょう。

もちろん、田池留吉の磁場に心を向ければ、私は限りなく広がっていくのを感じます。限りない広がりの中で、温もりが湧いて出てくる感覚は、幸せ、喜びを通り越して、ただただすごいエネルギー、ただただすごいパワーという感覚です。

田池留吉の磁場にすっぽりと収まっていると分かればいいだけです。

それではその分かるとはどういうことなのか。どうすれば、自分の心で分かるようになるのか。

田池留吉の顔を穴のあくほど眺めても、耳にたこができるほど話を聞いても、分かるものではありません。

結局は、自分の側の問題です。

母の反省と瞑想、他力の反省を丹念に繰り返し、まずは己の偉い自分に気付くことです。なぜ己が偉いのか。肉という基盤を抱えているからです。

それでは自己供養はなかなか捗りません。

自己供養が捗らないということは、田池留吉の磁場も信じられないということになります。

だから、目の前の悩み事、問題事を解決するために、この学びをしていくという他力信仰の延長をいつまでもやってしまうので

す。

田池留吉の磁場を思って瞑想をすれば、安心なんです。心が安心なんです。まさに預けていける母の懐です。

肉体細胞という小さな宇宙も、限りなく広がっていく宇宙、意識の世界も喜んでいきます。

その思いのまま、私は、今は特に飛鳥に心を向けています。

みんな、みんな、私の中で一つなんです。

飛鳥の私を思っていれば、そこに来世の私があります。

ああ、私は、私の中でみんな一つになって、一つの方向を向いていることが感じられて、それが嬉しいのです。

田池留吉の世界、田池留吉の磁場の中で、温かくて優しい中で、ただ思えることが嬉しいです。そうです、思うこと、思えることが嬉しいです。

心の針を向け合わせていけば、そこに大きな喜びと温もりの世界があります。遮るものが何もなく、どこまでも広がり続けていく世界です。

私はその中にある、田池留吉の磁場の中にある、心の中に安心感が広がっていきます。

田池留吉のという固有名詞が付いているから、肉をつかんでいく確率は高いのは確かです。

しかし、そんなところで引っかかっているのは、本当にもったいないです。田池留吉の肉は、学びについて心を向けていけば、懇

切丁寧にどなたにもお話をされます。しかし、肉は肉。愚かです。

確かに言葉に乗せて波動は流れています。波動は流れていますが、それを受け取れるかどうか、肉が基盤であれば殆ど素通りに近い状態です。頭は納得しても、心は納得していない状態です。納得させるのは田池留吉の言葉ではなくて、自分が自分を納得させるようにしていかなければならないのです。

しかし、**真実の世界を感じてくれば、田池留吉の磁場という波動の世界はただ一言「すごい」となってきます。**

磁場の中で、一つになって溶け合っていく喜びの世界をどんどん感じていく、感じていける喜びだけが広がっていくのです。

私は何のために、ここにこうしているのか。肉体を持っているのか。

私は私に真実を伝えるため。私は私に本当の喜びと温もりを伝えるため。

今ここに肉体を持っています。

その成果はどうか。

私は私に本当の喜びと温もり、真実の世界を伝えることができました。私の中は大いに変わりました。今世を境にして大いに変わりました。

私の転換期でした。私は今世を境に、これからの私はさらに変

わってまいります。

どのように変わっていくのか。

喜び溢れる私がまだまだ真実を知らない私をどんどん目覚めさせていける。その真なるパワーを私は自分の中に見出しました。だから、私は、どんどん変わっていくんです。中から私はどんどん変わっていきます。

私は私をいざなう喜びと幸せ、その私を今、心に感じています。

飛鳥に生きてきた私を思い、瞑想をします。田池留吉の磁場の中で、私は私を思い、瞑想をします。

お母さん、ありがとうございます。私の心の中に母の思いが広がっていきます。田池留吉のパワーの中で、私は喜びを感じています。

心は広がり続けていく。優しい、優しい中に広がっていく。

「お母さん、ありがとう」。自然に私の心がそう叫びます。私にとってこの時間は本当にかげがえのない時間でした。自分に用意してきたこの時間を私は、本当に堪能しています。ありがとうございます。ありがとうございます。

「ともに帰れることを伝えていただきました。ああ、嬉しいです。嬉しいです。ともに帰ろうと伝えていただきました」。思いを向ければ、私が私にそう語ってくれました。

田池留吉の磁場にどんどん心を向けていきなさい。そうすれば、あなたの自己供養は、さらに捗ります。

なぜならば、あなた自身が温もり、あなた自身が喜び。それをあなたは心で感じ知っているからです。そういう意識の世界にあるあなたが、田池留吉の磁場に心を向けるとき、さらに、あなたの心は広がり、喜び、温もりが大きく、大きく深くなっていくでしょう。

今朝の瞑想のメッセージです。その通りだと思います。田池留吉の磁場に心を向けていけば、ただただ広がっていく私を感じます。

肉体細胞の喜びとともに、私が広がり、そして、温もりと喜びが広がっていきます。

そうする時間を持つことが、私の自己供養だと言ってもいいと思います。

ふっと心を向けることが、すでに、喜びの中に、温もりの中に自分をいざなっている、そういう世界が私の中に確立していることを、田池留吉の磁場に思いを向けることにより、感じています。

学びの成果は、私の中で確実なものとなっています。凄まじいエネルギーに振り回されることなく、踊らされることなく、私の中で大きく吸収していける温もりと喜びの世界です。

田池留吉の磁場、ますます私の中で、その効果を発揮していくでしょう。

ありがとうございます。

さらに、今日は、次のようなことも明確に私の中に伝わってきました。

私は、田池留吉の肉がこの世から消える日を心待ちしているわけでは決してありません。

しかし、その時点から、私の学びはさらに始まり、深まっていくことは確かです。今世の肉を持ってする私の勉強の完成を必ずクリアして、250年後の来世の肉にバトンタッチです。

磁場を活用した治療方法を行っている人に向ける。

私が研究してきた中で、不思議に思っていることがあります。

どうしてこの磁場を使っていけば、ガン細胞が増殖しないのか。私のこの目で見ました。実験しました。本当にその結果が出ているんです。しかし、しかし、まだまだ途上です。

しかし、結果が出ていることは確かなんです。私のこの頭、能力、自分の経験、すべてから考えてみました。

私の中では、何も答えが出てきません。なぜなのか分かりません。なぜなのかは分からないけれども、現実としてガン細胞が増殖しない。ある程度、一定のところまで留まっている。いいえ、留まっているどころか、そのガン細胞が変化しているんです。正常とは言わないまでも変化しているんです。

悪い方向ではなくて、良い方向に変化しています。

これは何なのでしょう。何が作用しているのでしょうか。

私はそのところを、もう少し、自分の時間の中で研究していき

たいと思っています。

しかし、私の能力は限界に来ています。私がどれだけの時間をこれからかけようが、研究に勤しんでも、たぶん、たぶんですが、この答えは私の中では引き出せない。それを私は少し感じ始めています。

これを世間に発表すれば、医学の世界は本当に根底から揺るがすようになります。

私の功名心ではありません。こうして、治療ができるんだ。本当にこうして治療ができるんだ。私はそのことを皆さんに伝えたいんです。

私の功名心ではありません。不思議な、不思議な現象を私は目の前にしております。はい、不思議です。患者さんも不思議だと思われていると思います。患者さんに身体的、肉体的にあまり負担をかけずに治療ができる。このことを、私は一刻も早く発表したいのですが、まだ研究半ば。私自身がまだ信じていない。そういう段階で発表することはできません。

ただ私は不思議なことを目の当たりにして、不思議だ、不思議だと、そんな思いが私の中に広がっています。

はい、お名前は存じません。しかし、あなたの中に私達は伝えます。不思議でも何でもありません。はい、あなたの目にしていることは不思議でも何でもありません。

あなたが、心を見ていくことをされたら分かります。私達の言っていることが分かるんです。

私達は、意識、エネルギーです。そして、磁場も意識、エネル

ギーです。

そこに喜びのエネルギーを加えていけば、もっと不思議なことが起こるでしょう。それを私達はあなたに感じていてほしいんですが、あなたが自分自身で感じているように、あなたの今の段階では、限界です。限界を超えることはできません。

しかし、私達はその限界を超えることができることを、あなたに知っていただきたい。ただそのことをお伝えします。

私達は意識、エネルギー。喜びのエネルギーがガン細胞とともに働いていけば、その先にあるのは、本当に治っていくという現象です。

ガン細胞が喜びのエネルギーを受けて、喜びの状態に戻っていく。ということは、つまり正常な状態に戻っていく。そういうことなんです。

私達には不思議でも何でもありません。ただ、しかし、これは現実的には難しいことです。それは、患者さんが心を見ることをしてくれなければならないからです。それを行うあなた自身も心を見ることをしていかなければならないからです。

心を見る者同士が行う中で、私達はその不思議なことが不思議でなくなることを、今、お伝えしています。

私は波動、あなたも波動。はい、そのほうに意識を向けてみます。

はい、このメッセージ、そのほうに心を向けたとき、私の中に喜びが広がっていきます。私は波動、あなたも波動。一つを感じ

ています。

田池留吉の喜びの波動が伝わってきます。

ああ、私達は一つなんですね。そのように伝わってきます。

田池留吉の磁場に思いを向けて、私は瞑想をしています。そして、私の肉体細胞を思い瞑想をしています。過去からの私、来世の私、今の私が心をつにして、磁場を思い瞑想をしています。

その中で私の心に響いてくる思い、それは喜びです。はい、ありがとうございます。この時を大切に、大切に思います。

今、私は波動、あなたも波動と思い瞑想をした私の中を、大切に、大切にしていきます。

これからの私の勉強に大いにプラスになっていくと思います。今の瞑想をした感覚、私の中の信をさらに深めていくような感じでした。

私は、今、良質のお水を飲んでます。良質というのはそのお水の質、物質的なものもそうですが、お水を物質ととらえるのではなくて、私はお水に意識を向けながら口にしています。

私は、私が作ったお水、そうです、田池留吉の世界、田池留吉の磁場に心に向けてお水を作っています。

そのお水を、私は自分の心の針を田池留吉の世界、田池留吉の磁場に向けて合わせて飲んでます。

お水は、私の肉体細胞にすうっと浸透していきます。

そのようにして、約3ヶ月がまもなくやってきます。

お水を作って、お水を飲む。そして、肉体細胞とともに瞑想を

する。

飲む喜びもさることながら、私はお水を作る喜びを日々感じています。

自分で作って、自分で飲んで、そして瞑想をして、私は私の勉強を進めていけることを感じています。今は、それらがワンセットとなっています。

今、そのようにして思うこと。

「喜びでお水を作って、喜びでそれを口にする。それが喜びなんだ。その喜びで瞑想をして、自分に心の針を向ける。喜びが返ってくる。私の中で良い循環ができています。肉体細胞とともにある今、ともに心に向けられる喜びにありがとう。」

身体の不調、精神の不調、それを治すことが私達の目的ではありません。

私達の目的ではないけれど、今、そういうものが不調な状態であれば、しっかりと自分の心を見ることなどできないというのが現実でしょう。

身体がしんどいとか、気が散るとか、そういう肉体的なことはありますが、それよりも、心を見るその先にあるものは、他力の心なんです。そういう状態では、やはり、今の自分の不具合な状態を改善したいという思いが根底にあります。

その中から自分を解き放していくことは、難しいと思います。

それこそ、すべてをかなぐり捨ててという勢いというか、そういうエネルギーが自分の中からほとばしるほど湧いて出てくる感

触があれば、そこからポーンと自分の世界が開けていくでしょう。

私達は心を見るために今、肉体というものを持っています。心を見るために、今、身体があって精神、心があります。

それらが不調ならば、いくらそこから心を見ていこうとしても、大変難しいことです。

理想的には、病んだ肉体細胞に心に向けて、その肉体細胞とともにということです。しかし、現実はその簡単にはいかないのです。

ある程度の回復の兆しが見えていて、そこから肉体細胞とともに瞑想をしましょう、肉体細胞を思いましょう、それは比較的容易い作業です。

そういう理想と現実があることは確かですが、しかし、やはり、そこに肉体がある以上、自分と向かい合っていく誠実さを最後まで持ち続けなければならないと思います。

自分に対する誠実さと、すべてをかなぐり捨てて喜びで突き進むエネルギー、これが自分の道を開いていくのだと思います。

飛鳥の時代。

神の思いを一身に受け、ひたすら思いを向けて祈り続けてきました。

我こそ一番なり。我こそ神の声を聞く大きな使命を持った者。そのような思いで私は神の声を聞く者として勢力を張ってきました。

我にひざまずけ。我にかしずけ。私の心から、そして、私のこの口から発する言葉は神のお言葉。

我こそ素晴らしい。私に逆らう者に未来はない。私は後ろで糸を引く者でした。私の思うように政は、なされていきました。

私にお伺いを立ててくるんです。時の権力者はみんな私の言いなりでした。私は、我こそ素晴らしい。我に力あり。我は神なり。その思いを広げてきました。巫女として頂点に立ってきました。

特にあの飛鳥の時代、長く、長く私は政を牛耳^{まつりごと}っておりました。みんな私の操り人形でした。私は、自分に権力を集中させていきました。

私の思いを中心にすべてが回っていきました。

世の中のすべてが私を中心に回っていった、そんな飛鳥の時代を、今、振り返っています。

心は冷酷でした。私の中の寂しさ、空しさ、苦しさ、味気無さ、そういうものを押し殺し、ひた隠しに隠し、私は権力者、影の大物、そのように私は自分をたたえてきました。

しかし、心の中は、今、語ったように、寂しく苦しく何とも味気ない人生を繰り返してきました。

そうです。私は飛鳥の時代に、この日本の歴史を象徴する時代に何度も、肉を持ちました。

肉を持つたびに、私は自分の心の中のエネルギー、闇を前面に押し出し、すべてを牛耳る力を神に求め、その力により民を支配してきました。

私の一声で、首は吹っ飛んでいきます。情けはかけません。容赦なく切り捨てます。私に逆らう者は容赦なく切り捨てます。

そんなエネルギーを流してきました。

今。

今、私は、ゆったりと自分に思いを向けて瞑想ができることが、ただそれが嬉しいです。心に向ければ、心が広がっていく。その中で、淡々と自分を語る。語るだけでいい。そして思う。自分の中を思う。私の中には溢れるほどの喜びと温もりがありました。それが田池留吉の世界、真実の私の世界でした。だから思うだけで幸せなんです。

肩に力を入れず、自然な状態で、ただ心の針を向け合わせる。ゆったりと穏やかな中で、しかし、すごいエネルギーを感じます。そのすごいエネルギーを自分の中で包んでいく喜びです。温もりが広がっていきます。

異語が自然と出てきます。田池留吉と出てきます。アルバートと出てきます。

そうですね。アルバートと呼んでいる時が私の最高に幸せな時です。まさに、宇宙と一体という感じです。

田池留吉の磁場は、その宇宙と一体化していく喜びのエネルギー、喜びのパワーを心に呼び起こしてくれるのです。

田池留吉の磁場、そのエネルギー、真なるパワーを感じ、アルバートと呼ぶ喜び。私は、ただ淡々とこの瞑想を重ねていけばいいだけ。

何も思うことはない。小さな宇宙の肉体細胞は、田池留吉の磁場の中で喜びを吸収して自然に活性化されていくだろうし、私の中の宇宙は、田池留吉の磁場の中で、さらに喜びに目覚めていくでしょう。それが、肉を離れたあとの私の時間。

自己供養元年の今世を喜びで迎えることができたことを心から

感謝します。

田池留吉を思い、田池留吉の磁場を思って瞑想をすれば、私の心の中には、やはりアルバート、アルバートと出てきます。

アルバートと出会いたかったたくさんの私を感じます。

アルバートの宇宙と出会いたかった。それは待って、待って待ち続けてきた思いです。その思いが、心の底から突き上がってきます。

アルバートの波動を強烈に感じた10年くらい前の瞬間に私の心は戻ります。アルバートの波動、それを田池留吉の肉は伝えてくれました。

今、田池留吉の磁場を思って瞑想をしています。田池留吉の世界、そのエネルギー、パワーを心を感じていけばいくほど、やはり懐かしい、懐かしいと、アルバート、アルバート、そして私の心は、やはり宇宙に向かっていきます。

凄まじいエネルギーの^{るっぽ}垣塙の中でも、私は、心から心の底からアルバートと呼び続けていけることが、たまらなく嬉しくて幸せなんです。

アルバートの波動と出会いたくて、出会いたくて、本当に今世、それが、田池留吉との出会いにより現実のものとなった喜びを、私は変わらずに感じ続けています。もちろん、10年前の私と今の私が感じる世界、その波動の世界には格段の違いがあります。私の中で広く深く強くなっていく喜びと温もりの世界だと思っています。

しかし、時を経ても変わらないのは、私の中に、田池留吉の世界、アルバートの世界が生き続けていることを、瞑想をするたびに感じ、確認できる、今、肉を持ってそんな時間を過ごせることが本当に幸せだという思いです。

はい、今、本当に幸せなんです。田池留吉と思うだけで幸せです。また、田池留吉の磁場と思いを向ければ、安心感が広がっていきます。

身体が健康でということもあるけれど、私には瞑想ができるゆったりとした時間と気持ちが用意されているからです。

これは、今の私にとって、最大の贈り物です。

ゆったりとした時間の中で、ゆったりとした気持ちで、自分に思いを向けられる。そして、私の中で、田池留吉、アルバートと語れる。今、肉を持って、これほどの幸せはないです。

私は、肉的に十分に満たされているからと言ってしまえば、そうかもしれない。

ただ、肉はどこまでも欲です。ないものねだりをします。あるものに満足しないで、ないものに不足の思いを出します。それが愚かな肉の常です。

私は、その愚かな肉の中でも、やはり、自分は本当に幸せだとしみじみ思ってしまうほどに、幸せなんです。

それは、私の意識の世界が、田池留吉の世界をきちんと、とらえているからです。

瞑想をして感じる喜びと幸せは、何にも代え難いです。

肉を離しても、この状態でずっといけることを感じています。そして、私には、今世の肉を持って、瞑想をする時間がたっぷりと残されている、こんな幸せはないと思います。

どうぞ、皆さん、田池留吉を思い瞑想を続けましょう。田池留吉の磁場と心に思い、瞑想を続けましょう。

磁場とは何などと言わないで、ゼロ歳の瞑想で心に温もりを感じ、心の中に優しさが広がっていったならば、田池留吉の磁場と素直にすうっと心に向けるようにしてください。

何でも素直が一番です。分かる、分からない、感じる、感じないというところで、ゴチャゴチャしないで、ホームページで磁場と出てくれば、磁場と置いていけばいいんです。

自然治癒力、肉体細胞に思いを向けてとあれば、その通りにやっっていけばいいんです。

それが、今、田池留吉の肉、そして、その意識とともに学ぶということです。田池留吉の肉があるときは、あるときの学び方があります。

それを無視したり、おざなりにしたり、軽くあしらっているのでは、何とも、もったいないです。

皆さん、誰ひとり例外なく、我は神なりのエネルギーを宇宙に垂れ流してきたんです。

今、その思いを自分の中で、どれだけ受け入れて、そして、温もりへ喜びへ帰していますか。

私は、田池留吉を思い、田池留吉の磁場を思い瞑想をしたとき、

もう我は神なりの思いは出てこないです。

私は喜びでした。私は温もりでした。私達は一つです。その思いしか出てきません。それが私の今世の学びの成果なんです。

その結果を出して、私は、さらにこれからの時間、ともに学ばせていただける喜びと幸せの中にあります。

三次元から四次元へ、さらに次の次元へと続いていく喜びが広がっていきます。

その喜びの中で、今、肉を持ちながら、田池留吉の磁場を学んでいます。

田池留吉の磁場に向けて瞑想をしています。

もちろん、これは波動の世界の話だから、一人ひとりが自分の心で感じていく、体験していくしかありません。

自分の心で感じたものを信じていく、大切に育てていく、それがこの学びの基本中の基本です。そして、それはすべての人に公平、平等です。心で感じられる世界だから、みんなに公平、平等です。素直に心に向けていけばいくほど、幸せな自分、喜びの自分、温もりの自分と出会えるのだから、こんなありがたいことはありません。そんな学びの環境が、それぞれに用意されているのだから、こんな幸せはないはずです。

要は、喜びと温もりの中に一つに溶け合っていく瞑想の時間を持てればいいんです。そういう時間を持つことができるように、学んでいけばいいだけのことです。

そのような瞑想を重ねていけば、次元移行への流れをはっきり

と感じます。

田池留吉の肉というのは、真実の波動を伝えるために出現した形。

私は、その出現を知っていたから、どうしても今という時、肉が必要であり、しかも、真実の世界を十二分に学ぶための環境も絶対に必要だったことを知っています。

今世の転生は、これまでの転生とは全く違うという計画で私は肉を持ったのでした。私は、今世を自分の自己供養元年と書きましたが、それを絶対に現実のものとして自分の中で遂行するべく、自分に肉を用意したことを感じています。

来世、肉を持つのも、なぜ肉を持つのかということ、私の中で知っています。

次元移行が、もう目の前に来ている。今、田池留吉を思い、田池留吉の磁場を思い瞑想を重ねていけば、それがひしひしと伝わってきます。

アルバートを目指して次元を超えて集結してくる意識達とともに、心に向けていく喜び、それを瞑想の中で感じています。

意識の流れを心で感じる。次元移行が心に響いてくる。田池留吉の磁場に思いを向けて瞑想をすれば、だから喜びだけが広がっていきます。

過去、どんなに地獄の底を這いずり回ってきても、今、自分をこんなに喜びと温もりの自分にいざなっていることが、心に響いてくるばかりです。

田池留吉に対する信を、何度も何度も自分に問い続けてきました。田池留吉に対する思いを徹底的に吐き出し、そして、自分の中で確認して、自分の中で受け止めて、そして、私は私の中を変えていったのでした。

田池留吉に対する思いとは、自分に対する思いでした。

自分を呪い恨み、温もりを徹底的に否定してきた自分の中に作ってきた他力の世界。

私の意識の世界は、その他力の世界がどんなにすごいものなのか、田池留吉の肉を通して響く真実の世界から、つぶさに感じさせていただけてきました。

私は、もう過去形で表現しても大丈夫です。私の意識の世界は、もう後戻りすることは絶対にありません。闇のエネルギーを、私の中でどんだん喜びへ、温もりへいざなう作業が進んでいるからです。

それは瞑想という作業です。瞑想をするということは、心の針を合わせるといこと、合わせていけばどうなっていくか、それを私は淡々と今、肉を持っている時も、そうでない時もやっていくだけという流れになっています。

その流れ、次元移行へ流れていく流れを、今、田池留吉の磁場に思いを向けて瞑想をして感じています。こんな幸せなことはありません。

心が証明する確かな世界。波動の世界。自分の心が証明しています。何度も、何度も確かめています。

私は広がっていきます。温もりの中に、喜びの中に、どんどんどんどん広がっていきます。

自分に針を向ける。自分を思う。それがたまらなく嬉しい。喜びです。

何度も、何度も、何度も体験できるから、瞑想をする時間がたまらなく嬉しい。

そして、磁場と思えば、私はやはり宇宙と出てきます。アルバートと出てきます。

宇宙を思うことが喜び。宇宙を呼べることが喜び。

磁場のエネルギー、パワーの世界を、私の心がさらにとらえていけば、宇宙はもっと、もっと深く大きく広がっていくでしょう。

私は、田池留吉の磁場を学ぶ喜びは、そこにあることを感じています。

宇宙です。アルバートです。その波動の世界を体験できる喜び。それが磁場を学ぶ、学びたい私の思いです。

「次元を超えてやってくる意識達とともに」と私の中からそう伝わってきます。そうです。たくさんの肉を持たない意識達を心に感じます。

磁場の温もり、喜びを、伝えていける喜び。私は、それをどんどんやっていくだけです。

そういうところから思いを向けていくと、磁場を活用した研究が行われているということ、少し前に書きましたが、そういう人達が、本来の磁場というものを心で知っていかれたならば、と

思わざるを得ません。

今、すごいと思っている世界が、どんなにちっぽけな世界のこ
とであるのか、その中の誰か一人でも知っていただけたならと思
います。

心を向ける喜び。自分に思いを向ける喜び。そして、自分に真
実を伝えることができる喜び。

今、肉を持っていて本当によかった、本当にありがとう、そ
の思いを私は私に伝えています。

自分が温もりであり、喜びのエネルギーであること、この思い
は、250年後に肉を持つまで、引き続き私の中をどんどん、駆
け巡っていくでしょう。

そして、そんな意識の世界、宇宙を抱えて、私は満を持して
250年後に生まれてきます。

今世も、満を持して生まれてきて、今世の計画を滞りなく遂行
しています。

「私の転生はなぜあと一回なのか。」

それは、あと一回だけを残す転生というのは自分の中から出て
きた思いだったけれど、ずっと前に、私は自分に問いかけたこと
がありました。

答えは、明確に出てきました。

「今度、アルバートが肉を持つのが250年後。だから、私は
それまでに肉を持つ必要がない。」

最近、田池留吉の磁場を思って瞑想を重ねていると、この問い

かけが浮かんできます。そして、やはりその通りだったと感じています。

アルバートを、アルバートの波動を待ち続けてきた私。

田池留吉の世界、その磁場の世界を思えば、アルバートの波動の世界を大きく開花させるために、最終の肉を持ってくる私の計画に何の狂いもないことを感じます。

次元を超えてやってきた私が、次元を超えることができなかった意識達に伝えていきたい、いいえ、伝えていくんだ、そんな思いが響いてきます。

肉を持っている今も、肉を持たない間も、そんな流れの中にあることが感じられて、それはもう嬉しい、幸せどころの話ではありません。

決定した事実が、私の意識の世界をさらに喜びへと広げていきます。

だから、肉は毎日を淡々と通過していけばいいだけのこと、こんな幸せな肉の時間はありません。

もう私は、嬉しくて、嬉しくて、嬉しくて、本当に嬉しい。自分の深部に突き当たるといっか、田池留吉の磁場、その波動の世界は、そんなことを私に思い出させてくれました。

やはり、アルバートです。宇宙です。温かい、温かい温もりの中に、たくさんの宇宙達をいざない、そして、ともに母なる宇宙へ帰る、本当にそんな喜びだけが心に広がっていきます。

三次元にやってきた私が、長い、長い時を経て、今ようやく、

ようやく、この次元をあとにしていける喜びだけが心に広がっていきます。

田池留吉の世界、田池留吉の磁場、そのエネルギー、パワーこそが探し探し求めてきた私達の世界でした。

三次元にやってきた私の意識の世界が、今世、ようやくアルバートの波動と出会えることができた喜び。それを、今、田池留吉の磁場に心を向けることによって、そうだ、そうだ、本当にそうだ、ありがとう、ありがとうと私の中に上がってきます。

私の中には喜びしかない。温もりしかない。宇宙にさ迷うたくさんの意識達とともに帰れる喜び。田池留吉の磁場に思いを向ければ、そんな喜びの道筋がはっきりと感じられます。

そのために、私はこの三次元にやってきたんだ。この次元にやってきた意識達も、次元を超えることができなかつた意識達も、今度はともに超えていこう、私は、これからの300年、そう呼びかけ続けるでしょう。

田池留吉の磁場と思うだけで嬉しいです。私の中の意識達は待っていましたと心の底から喜びを伝えてきます。

温もりと広がり、そんな喜びの中にあつた自分達だと、どんどんどんどん心の中に伝えていくような、そんな動きを感じます。

自己供養、ああ、そうです。私は、肉がなくてもこの波動の中で私に伝えることができる。こんな嬉しいことはありません。こんな幸せなことはありません。

すべては次元移行を目指した意識の流れの中の出来事。

本当にありがとう。本当にありがとうございます。

私は、喜びでどんどん自分を進めていきます。本当に嬉しいです。心に湧き起こる喜び、温もりです。宇宙を喜びで埋め尽くしていけます。それが250年、300年に至る道筋。私は、はっきりと感じます。

田池留吉の世界、田池留吉の磁場を思い瞑想をしていけばいいだけ。

そして、250年後の目と目の出会いを待つのみ。

心で分かる、心でしか分からない。そんな学びをさせていただき、本当にありがとうございます。

心を向けられる喜びです。向けることを知った喜びです。

その喜びだけが私を支えています。そして、そこには限りない優しさと温もりがあります。

変わらぬ優しさと温もりでした。本当にありがとう。こんな私と出会わせていただきました。

私の中には、田池留吉の磁場という言葉も何も要りません。ただ肉を持っている私達には、最初は、何か言葉で示さなければなりません。

だから、田池留吉の世界であるとか、田池留吉の磁場であるとか、アルバートとか言っているだけで、要は自分を向ければいいだけです。

向ければ分かります。それだけです。私は私の中に響いてきます。伝わってきます。喜びが温もりが広がっていきます。ああ、

これが私なんだと感じます。

学びの最初の取っ掛かりは、それぞれに色々な問題の解決であるとか、その他、チャネラーになりたいとか、そういうことです。

つまり、学びをするに至る動機は殆どみんなそんなところにあります。それは仕方がないことでしょう。誰しも自分の悩み、心配事、問題をどうにかしたいと思います。また、目に見えない世界を自分が知っていけたら、そして、それを看板に自分を認めさせていけたらと思うのは、誰しもがはまることです。

しかし、たとえ、目の前の悩み事、問題がある程度解消する方向にいても、そして、自分の心が敏感になっても、それは大したことではないんです。

そこから、どのように自分を学んでいくか。まだまだ手つかずの部分の山のように残っている現実といつ向き合うのか。それを先延ばし、先送りにしては、せっかく、今世、学びとの出会いがあったにも関わらず、なあなあところで満足していく羽目になってしまいます。

みんなが仲良く幸せになるということは、一人ひとりが、自分の本質に目覚めていく方向に進んでいかなければなりません。

その一歩も二歩も前で留まりながらでは、本当にもったいないと思います。悩み事や問題を解決するために、そしてまた自分の心を敏感にさせるために、田池留吉との出会いがあったわけではないのですから。

一日も早く、本来の学びの軌道に自分を乗せていただきたい、私はそのように感じています。

田池留吉の磁場を思い、その中にある喜びを心に感じ、その思いをふうっと肉体細胞に向ければ、肉体細胞は癒されていきます。活性化されていきます。田池留吉の磁場、そのエネルギーは喜び100%だからです。温もり100%だからです。

喜びだけなんです。温もりだけなんです。そこには、通常の医療の現場のように、治してください、治してあげたい、治しましょうという一種の教祖と信者の欲の関係は一切ありません。

本来の磁場は、欲とは一切合わない。ただ喜びだけ。

そして、本当に喜びと温もりの波動の中で一体化していけば、そこにすごいエネルギー、パワー、つまり本来の磁場を集中させていけるんです。私は、田池留吉の磁場に心に向け合わせたとき、そのように感じます。

そのエネルギー、パワーの世界、波動、田池留吉の磁場を心で学ぶことによって、肉体細胞の活性化はもちろんのこと、さらに宇宙、意識の世界へ喜びのエネルギーが放射されていくスピードが加速されていくでしょう。

田池留吉の意識の世界にどんどん思いを向けて、磁場のエネルギーをどんどん感じ吸収して、次元移行の流れをアップしていきける喜び。今、田池留吉の肉がある今、その喜びを学んでいきます。

まずはゼロ歳の瞑想からです。基本はきちんと押さえてください。

母の反省と同時進行でゼロ歳の瞑想。そして、他力信仰の反省。そのもっと前は、「意識の流れ 増補改訂版」を読み込むこと。

これらをきちんとしていないと、学びは結局、空回りです。

空回りということは、今は、形はどうにかこうにか学びに繋がっていても、やがては、心を離していく結果となる可能性が大きいということです。

それほど個々の他力の心は根深いです。本当に根深いです。

しかし、それとは全く無関係に、意識の流れは滞りなくどんどん流れています。次元移行へ向けて流れています。今は磁場です。喜んで、喜んで、心を向けていきましょう。

私達には喜びしかない、温もりしかない、本当に心の底から知ったならば、今、こうして肉を持って学ばせていただいていることが無条件にありがたいと、本当に心に響いてきます。

そんな波動の世界を心で感じれば、行きつ戻りつ、一歩進めば二歩後退、そんなことは絶対にあり得ません。前進あるのみです。

過去、どんなに凄まじいエネルギーの^{るつぼ}壇場の中にあっただとしても、そんなものは雲散霧消していくほどのものだ、私は、田池留吉の磁場、そのエネルギー、波動の世界を心に感じ、それを実感しています。

あとに残るものは、喜びだけ。温もりだけ。ああ、そうだ、これが私だったんだ。それを実感できるからすごい、田池留吉の磁場はすごいに尽きるんです。

田池留吉の磁場を思い瞑想をすれば、私には次元移行の意識の流れしかないことを感じます。

意識の流れとは、次元移行です。その流れの中で今という一点があり、今、田池留吉の世界、その磁場のエネルギー、パワー、真なる波動を心を感じています。

私の中では、これが次元移行へ大きなはずみをつけている、さらにつけていくことが明らかです。

私はそれがたまらなく嬉しいです。田池留吉とともに思いを向ける、磁場を感じていく、宇宙に点在する数限りない意識達とともに磁場を感じていく、その壮大なる流れ、学び、私の心をとらえて離しません。

300年に至る時間と空間、磁場を思い瞑想をする喜びの中で、今、その様を感じています。

一人でも多くの方が、田池留吉の世界、田池留吉の磁場に少しでも触れて、その肉を終えていっていただきたい。

田池留吉からのメッセージです。

磁場は温もり。磁場は喜び。私の中に広がっていく。

磁場を思い瞑想を続ける。たくさんの、たくさんの意識達を感じる。

ありがとう、ありがとう、ありがとうと、心から溢れてきます。

肉ができることは、心の針を向け合わせていくことだけ。そうすれば、磁場の温もりと喜びの中で、たくさんの意識達がありがとうと喜んでくれる。

自己供養は簡単な作業でした。

私は幸せです。アルバートと心から呼べる私は幸せです。

田池留吉、本当にありがとう。本当にありがとう。田池留吉を思えば思うほど、アルバートが私の中に広がっていきます。

田池留吉の磁場はすごい。心が一瞬にして広がっていく。心が温かくて嬉しい。決して変わらない世界でした。遠くに捨て去ったと思っていたのに、全く変わらずに、何も変わらずに、私の中にありました。

田池留吉の磁場を感じる。温もりと喜びと安心が広がっていきます。

田池留吉の磁場と思って瞑想をすれば、なぜこんなに嬉しいのだろうか。

本当に嬉しいです。温かい、温かい温もりの中で、本当に心が喜んでいることを実感します。

自己供養が私の中で本当に滞りなく進んでいることを感じています。

温もりにほだされて、優しさの中に包まれて、たくさんの、たくさんの意識達の喜びが、心に充満していくという感じです。

ああ、本当に肉ができることは、この瞑想をする時間を持つことだけ。

肉は磁場と思えばいいだけ。そうすれば、自然に心が広がっていく。温もりと喜びの中で広がっていく。

もちろん、私は、こういう瞑想は、これまでにたくさん重ねてきました。だから、瞑想をする大切さ、喜びは心に染み渡ってい

ます。

しかし、ここにきて、磁場、田池留吉の磁場という言葉、そして、その波動の世界を心を感じ広げていく学びが、私の中でさらに始まりました。これは、私の中で、さらに新しい発展というか、進化というか、そういう方向に早くも進みつつあります。

磁場、田池留吉の磁場。

本来の磁場のエネルギーを、喜びのエネルギー、喜びのパワーを私の意識の世界は、確実に受けています。

「死ぬまで元気」、田池留吉の磁場と一体化していれば、それはごく自然なことだと納得です。

死ぬまで元気で、私は私の中とともに次元移行という意識の流れの中を流れていく、本当に嬉しいです。

磁場を思って瞑想をしていると、母からいただいたこの身体、大切にしていこう、改めてそう思います。

肉体細胞とともに、自分の中の宇宙を感じていく喜びを広げていけることに、改めて感謝の思いが出てきます。

磁場は温もり。磁場は優しさ。そして磁場は喜び。磁場は真なるパワー。

自分の中の磁場を高めていくことが喜び。高めていけることが喜び。

その時間を今、用意していることが喜びです。

次元移行の流れを感じる心には、肉はそれに沿って生活できることこそが、肉の喜びであり幸せだと伝わってきます。

次元移行という意識の流れとともに存在する肉でしたと分かれば、肉は、もう自然に幸せなはず。ふっと思えばいいから。ふっと思えば、喜びと温もりの世界にある自分を感じるから。

あとは、淡々と時を刻んでいけばいいだけなんだ。その中で瞑想を重ね、自分の宇宙をどんどん広げ、そして、自分の宇宙に伝えていく作業を続けていけば、知らない間に、さらに喜びと幸せが心に広がっています。

そういう状態まで、自分の意識の世界はなっているんだなあと、磁場を思い瞑想をする中で感じる場所です。磁場を思い瞑想をすると、自分の成長が感じられます。確実に変わった自分の意識の世界を感じます。

だから、どんどん前に進んでいけばいいだけ。自分の中の磁場を高めていく方向に、喜びの方向に進んでいけばいいだけです。

田池留吉の磁場を思い瞑想をする。

私は限りなく広がっていく。喜びとか温もりとかそういうものを全部ひっくるめて、私は限りなく広がっていきます。

どこまでも限りなく広がっていくことが喜び。それがただただ嬉しい。

そして、広がる私の心からパワー、喜びのエネルギーが限りなく、無尽蔵に心から湧いて出てくる。ああ、これが私なんだ。そう思えば、また私はどんどん広がっていきます。

私の肉体細胞からすごい熱量が発散されるのを感じます。身体

が熱い。

そして、心はというと、宇宙と一体化している喜びを感じます。

私の中で、たくさんの数限りない宇宙が、田池留吉の磁場から発せられるエネルギーを吸収して、喜びへと一つの方向を目指して進んでいっている、そんな喜びが私の心をさらに広げていきます。

今、一つの肉体を通して、こういう体験をさせていただけることが本当に嬉しいです。

磁場に思いを向ければ、間違いなくすごいエネルギー、パワーが心に充満して、私の世界をどんどん開いていってくれます。温かい、温かい温もりの中で、一体となっている喜びだけが心に大きく広がっていきます。

田池留吉の磁場を思い瞑想をすれば、私の心の中には喜びしか出てきません。そうです。喜びです。意識の世界には喜びしかないからです。

言葉にすれば、次元移行の喜び。宇宙達の喜び。そういう表現になってしまうけれど、適切に表現する方法がないことがもどかしいです。そうです、喜びだけなんです。

だから、その喜びと温もりの波動、エネルギー、パワーを100%心に受けていけば、肉体細胞の不都合など解消されることに納得します。

しかし、そんなことは大したことではない。

そのエネルギー、パワーはそんなちっぽけなものではないから

です。

田池留吉の磁場を思えば、意識の流れがはっきりと心に感じられるのです。だから、この上もなく嬉しい。その意識の流れの中で、たくさんの意識達の喜びが伝わってきます。

どこまでも限りなく広がっていく意識の世界の素晴らしさを、田池留吉の磁場は伝えてくれます。

一体化する喜び。一つになっていく喜び。時間も空間もなく、そこにあるのはただ喜びだけ。

どんどんやっぺいこう。どんどん瞑想をしていこう。

田池留吉の磁場のエネルギーを心に受けてから、何だか、このような思いが前よりも強く出てきます。

そして、結局は、自分にかかっている、自分次第なんだという思いも鮮明に出てきます。

みんな田池留吉の磁場の中にある、すなわち、母の温もりの中にあることなんて、学びの最初から伝えていただいていたことでした。

何も変わることなく、全く変わることなく、そうでした。

それはそうです。学びの本質に変化などあるはずはありません。真実は一つなんだから。

自然治癒力も、肉体細胞も、そして、田池留吉の磁場もみんな、みんな波動です。喜びのエネルギーです。一つ一つを切り離して考えていくものではないし、また切り離して思いなさいと言っても、それはできません。

すべては、喜びと温もりの中で一つだから。

ただ、共通なことは、これもあれも、みんな自分の心で感じる世界だということ。

だから、瞑想でしか分からない世界なんです。そして、瞑想を重ねていけば、誰でもが分かる世界。

分かっているならば、幸せとはこういうものだとはっきりと分かります。ああ、幸せだとしみじみ思えます。

今日幸せで、明日は不幸、そんなことは絶対にないです。幸せと喜びは継続していくものです。そして、大きく深く強くなっていくものです。

だからこそ、これから300年の時間が嬉しくてたまらないんです。

私は、来世の転生が待ち遠しい。意識の世界では、すでに到達していることだけれど、肉は一応、ある時間を経なければ、次の肉が現れてこないという法則の中にあるから仕方ありません。

満を持して、肉を持ってくることに、ワクワクしています。

田池留吉の磁場を思って瞑想をやっていますか。

すごいでしょ。すごいですよね。毎回、毎回瞑想をしても、ただただ嬉しくて、ありがたくて、喜びと温もりを感じています。どこまでも広がっていく中にあることが、ただただ嬉しいです。

これからの300年が心に響いてきます。本当に嬉しくて、ありがたくて、喜びだけの300年が心に広がってくるんです。

もう、私は嬉しくて、嬉しくて、宇宙が一体化して進んでいけ

ることが嬉しくて。だから、この瞑想はやめられません。

目を閉じて、磁場、田池留吉の磁場と思えば、もうそこには喜びと温もりの空間が広がっていきます。

波動の世界はすごい、本当にすごいです。喜びのエネルギーはパワーなんだ、そして、それは私の中からどンドンどンドン無尽蔵に湧いて出てくるものなんだ、それが実感できる喜びです。田池留吉の磁場を思えば、それが心ではっきりと実感できるからありがたいです。

世の中は、どんなに手を尽くし、力を尽くしても、崩壊の一途をたどります。形の世界に真実はないからです。

今世は、次元移行という意識の流れが顕在化しました。田池留吉との出会い、目覚めを経て、計画の遂行が粛々と行われている、田池留吉の磁場を思い瞑想をすれば、そんな意識の流れが心にどンドン伝わってきます。

田池留吉の磁場を思って瞑想を続けていると、私は、自分の中から私の磁場を高めていく喜び、高めていける喜びと、しきりに出てきます。

そこで、私は、田池留吉の磁場を思う瞑想をして、同時に、塩川香世の磁場を思う瞑想をし始めています。これから、私の中で、その両方の瞑想を同時進行で続けていこうと思います。

今現在の感想は、ただただ嬉しいということです。磁場を思い瞑想をすることがただただ嬉しい。それは、私の中で宇宙と一体化して、これからの時を経ていくことがつぶさに感じられるから

です。

磁場と磁場が反発するのではなくて、引き合い共鳴し合う、そして、それが一つになっていくときに発せられるエネルギー、パワー。そのエネルギー、パワーのすごさ、大きさを、私は、この同時進行する瞑想の中で深く味わっていくように思います。それが私の勉強に大きな効果を生み出していくように思います。

もちろん、そこは、喜び、温もりだけの世界。ただただ喜び、温もりが限りなく広がっていく世界。次元移行という意識の流れだけを、はっきりと心を感じていく喜び。

300年に至る次元移行という大事業に向けて、私は私の勉強をひたすら続けていく喜びを感じています。粛々として行っている喜びを私の心は受け取っています。

田池留吉、今世の喜びの出会い、本当にありがとうございます。

今、学びの人達の中に、どこまで、お水に関しての話が行き渡っているかよく知りませんが、12月のセミナーに参加されれば、やはり、お水ということが話題の一つになることは確かでしょう。

その時、どんな話の内容が、そして、どの程度の内容が、それぞれの耳に入ってくるか分かりませんが、内容云々よりも、その話を聞いた時のご自分の心を見るということを決して忘れないでください。

この学びで、お水を飲みなさいと勧誘しているわけではありません。

ただし、良質のお水を身体に入れることは、とても大切なこと

だと思えます。

それは、それぞれがご自分の肉体細胞に思いを向けて、その思いを心で聞かれたらご自分の心で納得されると思えます。

単にみんなと同じお水を飲めばいいというものでもありません。それでは他力信仰そのままです。

質的には同様のお水であっても、そのお水を作る人、飲む人の心の状態如何によるものだということを、実際にご自分で体験されれば、またそれがご自分にとって良いお勉強になるのではないのでしょうか。

そういうことでお水を活用していくことは、それぞれの学びについてそれなりの効果があると思えます。

耳を傾ける人、反発する人、様子見の人、様々な反応があると思えますが、要は、どんなことも、ご自分の心を見るという反省に繋いでいけたなら、それでいいのです。

どちらにしても、学びの軸がぶれることが、一番注意しなければならないことです。そして、軸がぶれていても気付かずにいることほど恐ろしいものはありません。

お水のほうにばかり思いを向けないで、今は磁場です。

田池留吉の磁場を思い瞑想をすることを中心に学んでください。

今度、意識の流れが顕在化してくるのは、もちろん250年後。その間、この地球を含め、形の世界にはたくさんの方が起こってくるけれども、それが意識の流れであること、真実はこうなんだということを伝える肉は存在しません。

つまり、意識の流れは粛々と流れているけれど、それは理解できない状態です。意識の流れが顕在化するという事は、真実はこちらだと指し示す肉を必要とするのです。

磁場を思い瞑想をすれば、その250年後の意識の流れの顕在化、つまり、肉を持って、肉という形の世界で、今と同様に本来の磁場のエネルギー、パワーをこの地球上で表現できる喜び、嬉しさがどんどん伝わってきます。

本来の磁場のエネルギー、パワーに、肉を持つ意識、肉を持たない意識がともに、共鳴し合い、さらにそのエネルギー、パワーが全開していくすごさ、喜びが広がっていくんです。

250年後はすごいです。250年後の出会いから僅か50年足らずで、この意識の流れの本流がどどどと溢れ出し、全宇宙とともに次元を超えていくのだから、そこには、それは、それはすごいエネルギー、パワーが発生していきます。

今、磁場を感じて瞑想をすれば、その間の私の勉強というか、存在の仕方が私の心に伝わってきます。それが何とも嬉しい、本当に嬉しい、そんな思いを感じています。

私は、この学び一本。この学び一本に集中できる今世です。

そんな自分を思うとき、そして、そこから磁場に向けて瞑想をするとき、ああ、本当に次元移行の意識の流れは、すこぶる順調に流れていることを感じます。現実味を帯びて私に迫ってきます。だから、瞑想が本当に嬉しいです。嬉しいだけです。

心向ければ、田池留吉の磁場、そして、自分の磁場のエネル

ギー、パワーが心に響いてきて、本当に何とも言えない思いの中にあります。

どんどん心に向けていけばいくほどに、アップ、アップしていく意識の世界。

学び一本に集中できる環境を整え、そして、250年、300年の計画を進めていける、進めていっていることが幸せというのか、喜びというのか、ありがたいというのか、ちょっと適当な言葉はないです。

今、こうして肉を持っている私。過去の私ももちろんですが、来世の私とともに瞑想をしている感覚が、今の肉に大きな喜びと幸せ感を伝えてきます。

次元移行を伝えにきてくれた田池留吉。そして、それを心で受け、アルバートとともに来世の肉は大きな働きをすること、磁場の瞑想が私にさらにはっきりと伝えてくれます。

本当に嬉しいです。待っていた瞬間の喜び、瞑想で感じています。

田池留吉の磁場を心に広げ瞑想を重ねていく私の中に、私は、どんどん前向きな人達と学んでいきたい、ただひたすらに次元移行へ向けて歩いていこうとする人達と学んでいきたい、そういう思いが湧いて出てきます。

私の基本は独立独歩です。田池留吉の磁場を心に感じる私の中には、もうすでに次元移行へ向けての道筋はきちんと定められています。だから、私は、私の今世の学習のコースをきちんと修了させていきます。そんな中で、これからの250年、300年の

喜びを本当に心から感じ合い、語り合える学びが、規模が小さくてもできていけばいいなあとと思っています。

私は、目を閉じれば、田池留吉、アルバートの波動を感じるし、自分の中でこれからも私の勉強は継続していきます。

瞑想の中で感じ心に響いてくるもの、伝わってくるもの、それが田池留吉の磁場であり、アルバートの世界だという確信があるんです。

私が肉を離れたあともこういう状態の中で、私の勉強が進んでいくこともまた、私は自分の中で確認済みです。

今世、私は学んでまいりました。もちろん、これからも、田池留吉の磁場を学び、自分の磁場を学び、意識の世界を学んでいきます。それが今世、肉を持ってきたたった一つの訳でした。

田池留吉の磁場に向けての瞑想はすごいです。どんどん自分の中の核心に触れていく喜びがあります。田池留吉の磁場を思い瞑想。自分の磁場を思い瞑想。今世の出会いが、ただただありがたいです。

瞑想をすれば、もちろん、この世のことは何もない。あるのはどこまでも広がっていく喜びと温もりの世界。そこに存在するたくさん宇宙達を感じていける嬉しさ。田池留吉、アルバートを感じている私には、もうそれ以上の幸せはありません。

瞑想はすごいと思います。本当にすごいと思います。肉を持ってこの波動と出会えることがすごい、本当に奇跡です。

落ちて、落ちて、汚しまくってきた意識の世界に、ようやく本

当のことを伝えることができる喜びと、次から次へと一つの方向に向けて、いざ発進という力強さを共有できる喜びを感じています。

肉の事など本当に整っていきます。いいように整っていきます。自分に思いを向け、この温かくて優しい、そして、力強い磁場の中にあることを確認していけば、勝手に周りの肉のことは、その自分の中の流れに沿っていつている、そう実感しています。

だから、さらに学び一本に集中できます。今、この肉を持っている今だからこそ、学ぶべきことがあります。

私は私に思いを向け、そして、自分の磁場に思いを向け、田池留吉の磁場と限りなく一つになることが、私の喜び、幸せであることをよく知っています。

本当に意識の世界はうまくなっています。予習時間である今世は、十二分に学べるように肉の環境が安定しています。また、本番の来世は、肉の殻を一気に突き破るための環境を用意しています。

来世は、肉の殻を一気に、一瞬にして突き破らなければなりません。そしてあとは、今世、そして、これから250年という間に万端整えられた意識の世界がどどと流れ出し、溢れ出し、宇宙を埋め尽くす勢いで爆発していく運びとなっています。

今世、ゆったりとして瞑想を続けていくことをしていけばそれでいい、幸せな人生です。

今、身体が空いたから、時間ができたから、瞑想する。それで

はダメです。そんな瞑想の仕方はダメです。

まず、瞑想をする時間を生活の中で絶対に確保する。確保です。瞑想をするために時間を確保する。時間を作るんです。もちろん、意識的に時間を作るわけだから、体調とかそういうものもそこに入れて、快適に瞑想をする環境を作り出すことが大切です。

そういう姿勢で学びに臨んでいくのは、ごく自然なことだと私は思っています。

田池留吉の磁場を思い瞑想をする。これは12月のセミナーに参加されるならば、毎日やってください。毎日です。今度のセミナーは、磁場中心です。

まだ一カ月以上あります。どうぞ、時間を作って田池留吉の磁場に向けての瞑想を重ねていってください。

せっかくの学びの時間です。せっかく自分に用意した時間と空間です。

真剣に真摯に自分と向き合しましょう。

私も、これからひと月余り、可能な限り瞑想を重ねていきます。ゆったりと、そして、喜んで瞑想を続けていきます。

どうぞ、皆さん、自分に結果を出してください。自分に納得がいく学びをしてください。

私は、私の勉強ができることが何よりの楽しみです。セミナーは、私の勉強の場です。自分を学んでいけることがありがたい。私の中の数限りない宇宙達とともに学んでいけることが、ただただありがたい。

田池留吉の磁場のエネルギー、パワー、存分に学ばせていただきます。

それには自宅学習は欠かせないものです。自宅で学習してきたものを、セミナー会場で確認する、昔と全く変わらない学びに対する私の取り組みです。

田池留吉の磁場を学ぶ。本来の磁場のエネルギー、パワーを心でどんどん学んでいく、学んでいける喜びだけがあります。

磁場と磁場が出会った瞬間に発するエネルギー、パワー。それらが意識の世界にどんどん流れ出し、溢れ出していく喜びの様を心で感じられます。

意識の流れをはっきりと感じ、250年に焦点を合わせた存在の仕方、生き方だけが私の中にあります。

瞑想をして、なぜこんなに嬉しいのか。本当に心から喜びが湧いて出てくる、突き上がってくるのは、その磁場と磁場が出会う瞬間の喜びが心に充満してくるからなんだと思います。

私の中には、250年、300年に至る次元移行への軌跡が広がっていきます。

今、肉を持って学べること、来世、肉を持って学べること、そして、その間に学べること、どれを思ってみても、ただ嬉しい、ありがたいの思いの中にあります。

次元を超えていく、そう思うだけで、私は本当に嬉しいです。磁場を思う瞑想、その喜びの瞑想を続けていきます。

ああ、私は待ち遠しいです。セミナーが待ち遠しいです。

田池留吉の磁場の瞑想をしてから、私の意識の世界はさらに弾みがついた感じです。波動の世界はすごいです。だから、今度のセミナーが待ち遠しい。

田池留吉の磁場に心を向けよう、向けていこう、そう自分の中に呼びかける嬉しさ、幸せが広がっていきます。心に喜びのエネルギーが伝わってきます。波動が伝わってきます。田池留吉の磁場の波動が伝わってきます。

肉を持っているときは、肉とともに学ばせていただける喜びはもちろんあります。肉とともに学んでいく必要性も、もちろんあります。

しかし、肉と肉の距離はどんなにあっても、心を向ければ波動が伝わり、エネルギーを感じ、喜びを感じる。幸せを感じる。

互いに意識なのだから、当たり前のことだけれど、田池留吉の磁場の瞑想をすることにより、それがなおいっそう具体的に私の心で感じられます。肉を持って意識の世界を学べる喜びは、意識の世界は、目に見えないけれど、そして、形はないけれど、自分の心がきちんと受け取ることができることと具体的に分かることだと思います。

その他、磁場に思いを向けて瞑想をすることによって、私の心にもたらされた効用は大きいです。

瞑想です。やはり最後は、正しい瞑想です。基本をきちんと押さえ、意識の転回が自分の中で始まって行って、やっと正しい瞑想の第一歩が始まる、そういうことでしょう。

瞑想をして、意識の世界が広がっていけばいくほどに、肉との落差を感じます。感じて落ち込むのではなくて、反対に瞑想で感じる意識の世界の素晴らしさが際立っていきます。

下らない肉がここにあって、しかし、その肉を使って心を向ける作業を繰り返している。肉は下らないけれど、しっかりと心を向けられる肉であることが嬉しい。

肉を通して、意識の世界、磁場を感じていく。全面的に受け止めていける心であることを確認できる日々。

それは私にとって何よりの喜びです。心を全開して、ただ思う。ただ心を向ける。思えば、向ければ、喜びが、温もりが広がってくる。ありがとうが広がっていく。

私は肅々として、この喜びの道を歩き続けていけると伝わってきます。

そんな私の瞑想の時間です。瞑想で感じる世界は、ただただありがたくて嬉しいです。

田池留吉の磁場を思って瞑想をしてくださいということだから、私は、素直に、田池留吉の磁場と思い瞑想をしています。ただそれだけです。それだけで、広がっていく世界が確かにある。そして、それが私の世界。私は、その中で、アルバートと呼んでいる。心から呼んでいる。それがたまらなく幸せ、喜び。心からありがとうが伝わってくる。私の中に、たくさんのありがとうが飛び跳ねている、そんなことを感じます。

私には、田池留吉の磁場は、やはり宇宙の喜びと感じられるのです。

磁場の喜びのエネルギーは、宇宙の喜びのエネルギーと直結し

ている。だから、私はたまらなく嬉しい。

ずうっと未来が私の中で開いていく。どこまでも、どこまでも開いていく。

磁場を思う瞑想はすごいです。

昨日と今日の二日間、物質的な磁場を学びました。そのことについて、私が今、心で感じていること。そして、田池留吉の磁場との違いについて、語ってみます。

磁気装置を使って発生する物質的な磁場をこの肉を通して体験しました。確かにすごいエネルギー、パワーだと思います。マイナスの情報をプラスに反転する作用、そこには確かに磁場のエネルギー、パワーが存在します。私は、この肉を通して感じさせていただきました。

はい、それは確かにそうです。

しかし、それをもっとすごい方向に活用できるのは、やはり、田池留吉の磁場を心に感じる事、田池留吉の磁場をしっかりと心に感じられる事、感じる方向に行く事、それが大きな、そして、たった一つの条件です。

物質的な磁場を本来の磁場に向けていくその心の向け先、その過程がとても大切だと思いました。

物質的な磁場を通して、肉体的、精神的にマイナスの情報をプラスに変える、それは確かにあり得ると思います。しかし、そこから先、そこから先へ行くのが私達本来の道筋です。

だから、そこへ心を向けないということ、つまり、物質的な磁場に留まるということは、一時、不都合は解消されても、また新たにマイナスのエネルギーが生じ、身体的、精神的に不都合な現象を起こしていく、その繰り返しです。根本から完治することはあり得ません。

物質的な磁場を使って、まず身体的なマイナスの部分プラスに反転する。そして、その状態により、さらに、自分の磁場を、田池留吉の磁場に向けていく。その作業をすることが、本当に大切だということを私は学ばせていただきました。

田池留吉に聞きます。

物質的な磁場と田池留吉の磁場。本来、それは共通するところはあるのでしょうか。

田池留吉の磁場が本来のエネルギー。喜びだけ、温もりだけの本当にただ一つの世界です。

物質的な磁場もまた、プラス、プラスと言います。しかし、その喜びのエネルギー、パワーは、田池留吉の磁場に比べると、ほんのちっぽけな世界です。

それでも、肉体的、精神的に不都合なところがそうでなくなるという、そういう作用はあり得ます。

しかし、田池留吉の磁場を心に感じる意識の世界には、それはほんの微々たるものだということが心で感じられると思います。

田池留吉の磁場は温もり、喜びのエネルギー。喜びだけのエネルギー。まさしく、本来のパワー、エネルギーの世界です。

物質的な磁場はそれほどの威力はございません。ただ、肉、形を本物とする意識の中では、その物質的な磁場こそが、すごいエネルギー、すごいパワー、これこそすごい、すごいと評価されるでしょう。

しかし、心を田池留吉の磁場に向けて瞑想をするときに感じていく世界とは、全く比べ物にはならないんです。

また、物質的な磁場を含み、田池留吉の磁場ということでもありません。

ただ、身体的、精神的に不都合な状態を改善するには、まず、物質的な磁場を通して、そのところをよりよい方向にしていく、それは必要かと思います。

そうしておいて、田池留吉の磁場に心を向ける。そのことに専念していくんです。

そうしたとき物質的な磁場において改善された部分が、益々田池留吉の磁場のエネルギー、パワーを吸収し、そこからさらに大きな世界を、本当に喜びのある、温もりのある世界を感じていける、そういうことだと思います。

ただし、田池留吉の磁場に心を向けるということは、これは、簡単なようで難しいです。

なぜならば、それぞれの意識の世界に他力の世界、田池留吉の磁場と相反する他力の世界を、長い時間をかけて作り上げてきたからです。

だから、焦らず、弛まず、田池留吉の磁場に真摯な思いで心を向けていくことが肝要です。

物質的な磁場により、身体的に不都合な部分が改善されたとは

いえ、それは、すぐさま、田池留吉の磁場に心を向けている、意識を向けている、その世界を心が受けていっている、そういうものではありません。

ただ淡々と瞑想を重ねていくんです。その中で、自分の心を見ながら瞑想を重ねていくんです。

物質的な磁場を受けるときは、心の中に多くの欲の思いが膨らみます。しかし、膨らんだとしても、物質的な磁場により、その欲は満たされる方向にいくでしょう。

しかし、田池留吉の磁場の世界はそうはいきません。

自分の心の中の欲の部分、その部分と田池留吉の磁場は全く相入れないからです。

それが意識の世界の厳しさです。しかし、それを自分の中で淡々とクリアしていけば、心の中に、田池留吉の磁場を本当に感じ広げていけるんです。その喜び、温もり、すごいエネルギー、喜びのエネルギー、温もりのエネルギーを、心で感じていったならば、もうこれこそ間違いのない、真実の波動の世界だと、自分の心は証明していけます。田池留吉の磁場はそういう世界です。

物質的な磁場とは、比べ物にならない、いいえ、比べることができないというところが本当のところですよ。

田池留吉の磁場を思い瞑想をすれば、一時間はあっという間に過ぎ去っていきます。

喜びだけ。温もりだけ。だから気持ちがいい。心の中に喜びと温もりが押し寄せてくる。ああ、この世界を知り広げていくため

に、私は生まれてきたんだ。湧き起こる喜びの中で、それを確認できることが、たまらなく嬉しいです。

優しさと温もりと喜びの自分を信じる心と、今世ようやく出会えました。

自分を裏切ることのない嬉しさ、自分を見捨てることのない嬉しさ、自分に自分があるがとうと言える嬉しさ、そんな嬉しさが心に響く波動の世界です。

瞑想をする時間を持ちましょう。ただ喜んで瞑想をする時間を持ちましょう。思うだけでいい。思えることが喜びです。

田池留吉の磁場を思い、自分の磁場を思う瞑想は、瞑想をする喜びだけを伝えてくれます。瞑想は喜びだと伝えてくれます。

こんな優しい、こんな温もりのある広い、広い中にあったことを、はっきりと伝えてくれる、それが磁場に向けての瞑想です。

喜びのエネルギー、パワーにどんどん触れていく、吸収していく喜びだけがそこにありました。

田池留吉の肉を考えれば、85歳のご老体です。

今、その肉とともに学ばせていただける喜びを満喫しています。

田池留吉の磁場に心に向けていけばいくほど、命を懸けて真実を伝えてくれたことに、また、誠心誠意、手取り足とり真実を伝えてくれたことに、本当にありがとう、ありがとうの思いが心に広がっていきます。

心に向けて応えていける嬉しさ、これは本当に幸せです。

そして、応えていけばいくほど、ただただありがとう、ありが

どうの思いが伝わってきます。

喜びが喜びを生み出していきます。田池留吉の磁場の中で喜びがどんどん増殖していきます。温もりがどんどん湧いて出てきます。

私は幸せです。田池留吉の磁場は、次元移行への流れを私の心にしっかりと伝えてくれるからです。田池留吉の磁場を思う瞑想で何が嬉しいって、それは、次元移行の流れを感じられることに尽きるのです。

間違い続けてきたけれど、狂い続けてきたけれど、私の中は、次元移行へ向けて動き出している喜びに湧いています。だから、田池留吉の磁場にすごい反応をします。待って、待って、待ち続けてきた真実の波動、エネルギー、パワーに次から次へと触れていく喜びを感じています。

今、こうして肉を持ち、そして、田池留吉の肉とともに学ぶこと、自分を感じていけること、意識の流れを感じていけること、それらがみんな一体となって、私の中に大きな喜びのうねりが響いてきます。

瞑想は喜びです。瞑想がすべてです。瞑想ができることが、すでに喜びでした。

田池留吉の磁場の中にある自分を思えば、ただただ嬉しい。本当に嬉しいです。

私が磁気装置を使うということは、思ってもみないことでした。

しかし、そういうものを通して、学ばせていただく機会がある

ことを喜んでいきます。

私は、きっとこの機会を活かして、私の勉強を推し進めていけると思います。

私は、私が成長することが、意識の世界にとって、この宇宙にとって、大きなことだと思っています。

田池留吉の磁場に思いを向けて瞑想をして、そして、自分の磁場に思いを馳せる瞑想を重ねるごとに、そういうことを感じています。

それは己が偉いとか、我一番なりというちっぽけな世界のことではないという感じです。

まさに、磁場と磁場が一つになったときに発生するエネルギー、パワーのすごさ、大きさ、そういうものを私の意識の世界はとらえ始めているのだと思います。

だから、今、肉を持っている今、そして、田池留吉が肉を持っている今に学ぶべきことは、きちんと学んでいくことが、とても大切だし、それがこれからの私にとって大きな力となっていくと思います。

次元移行への道は確実に歩みを進めています。意識の流れは喜びで、喜びで歩みを進めています。

ともにこの流れに乗っていきませんか。瞑想をどんどん重ねていきましょう。私は磁場と思うと、次元移行の流れ、喜び、ありがとう、嬉しい、待っていました、そんな思いの中で、私自身が広がっていきます。

どこまでも限りなく広がっていきます。優しさとか温もりをしつかりと感じながら、たくさんのたくさんの意識達、目に見えない存在、しかし、私の心の中にずっとずっとともにあった意識達の存在を感じます。

だから私は嬉しいです。たくさんの私とともに次元を超えていける喜びが心に響いてきます。

磁場に思いを向けるということは、宇宙に思いを馳せることです。母なる宇宙へ帰る喜びが確実に私の心に伝わってきます。

一つの肉を持ち、一つの肉を通し、磁場の波動を心に感じ広げていける喜び。ここを感じていけばもうたまらなく嬉しいです。

そんな私に、さらに本来の磁場のエネルギー、パワー、喜びを宇宙に流していける大きな学びの機会が到来しました。

物質的な磁場を作る作業の中で、物質的な磁場を媒体にして、私は、本来の磁場にさらに心に向け合わせていくことをやっています。

私はそれが嬉しくて、嬉しくて、ともに感じていこう、ともに心に向け合わせていこう、そう呼びかけていけるのが嬉しいです。

たくさんの、たくさんの意識達がこの宇宙にさ迷い続けています。その意識達を心で感じながら、そして、それらとともに本来の磁場の世界を心で感じていけることが、ただただ嬉しい、喜びという時間をいただけると思います。

一つの肉が田池留吉の磁場、本来の磁場に心に向けることを知った、合わせられるということは、すごいことなんだと瞑想をし

てしみじみ感じます。

数え切れない意識の集団が、温もりを感じて、喜びを伝えてきます。ありがとうございます伝えてきます。

今、一つの肉を通し、それを体験できることが、ただただ嬉しいです。

ありがとう、ありがとうと心の奥深くから伝わり響いてくるんです。

どんなに自分を裏切り、見捨て、汚してきても、私は自分を待ち続けてきました。自分をずうっと信じて待ち続けてきたことが感じられるんです。自分の心の奥深くにあった温もりと喜びの世界が、どんどん紐解かれていきます。

私は温もりと喜びの中にある、いいえ、温もりと喜びの世界しかないことをはっきりと感じます。

田池留吉の磁場に向ける瞑想はとても気持ちがいい。本当に気持ちがいい。

私は、幸いにして身体は元気で、特に今どうというところはありません。また、腰がとか肩が膝がというところにも、あまり不都合はありません。強いて言えば、最近、右足の股関節あたりに時々違和感があります。

身体的なことで、少々えっと思うことがありました。昨日あたりから、またその右足の股関節の違和感がありましたが、それが昨晚、田池留吉の磁場に心に向ける瞑想をして就寝して、今朝起きた時、その違和感がなくなっていたんです。

私は、もちろん、毎日、田池留吉の磁場を思って瞑想をするということは続けています。そして、これまでも、右足に違和感があった時もありました。しかし、瞑想をして、それが消えていたという体験はありませんでした。

しかし、昨日の瞑想を経て今朝、何もなくなっていたんです。

私は、身体の不調ということがあまりないので、上記のような体験はこれまでしたことがありませんでした。

肉的なことを通してですが、磁場に思いを向ける、心を合わせるということは、すごいことなんだと初めて、わが身をもって体験させていただきました。

意識の世界では、もちろん、これまで言ってきた通りのことを感じています。それが自分の肉体で体験できたことが、私にとって新鮮でした。

瞑想をすることが嬉しい。楽しい。何も思わずとも、ただ目を閉じていけば、温かい温もりが広がっていきます。ありがたいの思いがどんどん伝わってきます。

ああ、これが私の世界なんだ。私なんだ。ありがとう、ありがとうと私は言っている。嬉しいんだなあ。温もりに触れて、温もりに包まれて、そして、安らぎの中へいざなわれることが本当に嬉しいんだなあ、そんな思いが繰り返し、繰り返し、私の中に上がってきます。

そんな嬉しくて温かいときを、こうしてともに持たせていただいていることに、ただただ、ありがとうしかありません。

自分を自分がいざなうことが、こんなにも嬉しい。

自己供養の喜びを、私は、磁場を思う瞑想の中で感じています。

そして、また、私の中にさらに大きなエネルギーが出てきます。しかし、それよりももっと、もっと大きくて温かいエネルギーが私の中に漲^{みなぎ}ってきます。限りなく広い中で、私は私を包んでいける、その喜び、その幸せを私は心に広げています。

私は、田池留吉の世界、田池留吉の磁場を伝えていきたい。いえ、伝えていくことが私の仕事だとそのように感じています。

瞑想をして、心に向け合わせていけばいくほど、田池留吉の世界、田池留吉の磁場のエネルギー、パワーのすごさを感じるからです。

田池留吉の磁場に向けて瞑想といっても、あるのかないのか、感じているのか、感じていないのか、そういうあやふやな不確かな思いを抱いている人は、おそらく少なくないと思います。

そこで、例えば、体調が不調な人がここにいるとします。それは、ただ腰が痛いとか、足がどうか、お腹がという軽症ではなくて、例えばガンであるとか、そういう診断を下された人を想定します。

もし、その人とともにこの田池留吉の磁場に心に向け、合わせていく作業を、本当に喜んでできる準備が整っていたならば、私は、きっと病気も改善されていくだろうと思っています。

そして、それは、言うまでもなく、田池留吉の世界、田池留吉の磁場にどれだけ純粹に真摯に心に向け、合わせていけるか、喜びで、喜びで心に向け、合わせていけるか、その人の心の状態に

かかっているのです。

私は、そういう人とともに、田池留吉の世界、田池留吉の磁場を心に広げ、そして、本当の喜び、本当の温もりの世界、次元移行へ意識を広げていける作業をしていきたい、そのように思っています。

欲は要らない。我一番も要らない。ただひたすらに、次元移行へ向けて喜びで私は私の歩みを進めていく中で、そういう人との出会いを待っている、田池留吉の磁場に向けて瞑想をする中で、そんな私の近未来が見えます。

田池留吉の磁場のエネルギー、パワーを心に感じていけば、どんどん感じていけば、ただただ嬉しくなるばかり。心から、心の奥底から温もりが突き上がってきます。

ああ、これだ、これだと自分の中で確認する喜びがあります。確認できるのは、私は、もともとその世界を知っているからです。

心の針を向けて合わせて感じられる世界、響いてくる世界、ああ、田池留吉の波動、アルバートの波動、ああ、そうです、私の心は知っていました。本当に知っていました。だから、今、出会っている喜びが心に広がっていくのです。だから、瞑想はただただ嬉しい。

今世、心の針をようやく合わせられるようになりました。意識を合わせられるようになりました。瞑想をする中で、私はその確認をしています。

今世、肉を持たせていただいて自分を学ぶことを学ばせていた

だいています。

心を向ける喜び、向けられる喜び、素直で優しい自分を自分だと知った喜び、それらはみんな、今という時間と空間を自分に用意したからこそ、自分のものとなりました。

意識が一つになっていく喜びを、磁場に思いを向ける中で感じています。ああ、ともにある、そう実感できる喜びです。意識の出会い、本当にありがとうございます。

田池留吉の磁場を思い、自己供養です。

例えば、私の心が鮮明に現れた飛鳥の時代。今、田池留吉の磁場の中で、飛鳥の時代に生きた私の心に思いを向けてみます。

血塗られた心の歴史、心の記憶、私の中に山のようにあった記憶。その一つ一つが本当にちっぽけな世界に感じられます。

心を広げて自分を受け入れていける喜びです。愛しいです。

敵味方に分かれて、明日をも知れぬ運命の中で、どれほど自分の心を落としてきたか。しかし、その思いはあまりにもちっぽけでした。

だけど、それらのたくさんの意識を抱えて、その時間を経てきたからこそ、今、私は自分の中に温もりを伝えることができます。喜びを伝えることができます。

この喜びのエネルギー、広い、広い世界が私。温もりが私。

だから、一つ一つを、心に感じ広げ、ともに帰ることを伝えることができます。

血で血を洗う殺戮^{きつりく}の時間、本当に間違っただ時間を経てきました。心の中から、喜びとともに懺悔の思いが湧き起こってきます。懺悔は喜びです。喜びのエネルギーを感じるから懺悔の思いがどんどん出てきます。自分が愛しいです。狂ってきた自分が愛しいです。

喜びと温もり、優しさが自分だった、磁場のエネルギーはそれを自分に伝えてくれていました。

そんなことを心を感じながら、瞑想の時間を経ていくうちに、もう、私の中には、飛鳥はありませんでした。

私の中は、ただアルバートと呼んでいます。田池留吉の磁場を思えば思うほど、やっぱり、やっぱりアルバート。アルバートを呼ぶ喜びが広がっていきました。

田池留吉の磁場と天変地異。

アトランティス大陸が沈んだときを、肉を持って私は体験させていただきました。

そして、ずうっとその後、転生をさせていただきました。そして、今、田池留吉の肉とともに転生をしています。

今、私がアトランティス大陸に思い向けるとき、ようやく、ようやく、アトランティス大陸の沈没を自分の心の中で、喜びで受けていける、あれは喜びの現象だったんだ、そのようにはっきりと感じさせていただいています。

それは、田池留吉の磁場の中にある自分をはっきりと感じるからです。

アトランティス大陸の沈没は喜びでした。私は、はっきりとそのように言えるんです。

これからも、大陸は沈んでまいります。小さなところでは、日本の国です。日本の国が沈没していく、これは喜びですと私は、ずっと伝え続けてきました。しかし、私が今、田池留吉の磁場を感じて、アトランティス大陸の沈没とか、日本の国の沈没とかに思いを向けたとき、今までの喜びと伝えてきた思いとは雲泥の差とまでは言いませんが、大きな、大きな変化が私の中で現れてきています。

本当に大陸が沈んでいくということは喜びなんです。それは、大きな、大きな喜びのエネルギーがそこに働いていくからです。

人類に気付きを与えるには、天変地異、これしかないということ、私ははっきりと感じています。

田池留吉の磁場に思いを向けたとき、天変地異に喜びのエネルギーを感じます。その喜びのエネルギーを、田池留吉の磁場に思いを向けてもう少し、自分の中で、はっきりとさせていきます。

天変地異に思いを向けて、田池留吉の磁場に思いを向けて、本当に天変地異は喜びであるということ、私は自分の中からはっきりと伝えていきたい、そのように思いが上がってきます。

物質的な磁場は、確かにそれなりの効果は発します。

それよりも何よりも、その作業を通して、肉体細胞に私の意識は向きます。そして、肉体細胞の波動を感じます。私は、その肉体細胞とともに、肉体細胞の思いとともに作業をする。肉体細胞の思いを感じながら、田池留吉の磁場を感じながら作業をするごとに、私は喜びを感じます。

それが、私には何よりも嬉しいです。

喜びのエネルギー、喜びのパワーがどんなにすごいものなのか、物質的な磁場をきっかけにして、そこから、田池留吉の磁場、つまり本来の磁場の世界、そのエネルギー、パワーをどんどん心に広げていくようになっていけばいい、そのように思います。

そうです、物質的な磁場はきっかけです。物質的な磁場を足がかりに、本来の磁場の世界を、どんどん学んでいく方向に自分の歩みを進めていくことが本筋です。

田池留吉の磁場に心の針を向け合わせて田池留吉の磁場を感じる瞑想、その喜びの波動、エネルギーが肉体細胞をどんどん活性化させていくと、心で確認できることが喜びなんです。

田池留吉の磁場を感じ、その波動の世界を感じていれば、肉体細胞は間違いなく活性化します。

喜び、喜びだけの世界なんだから、本当に心に向け意識をピタリと合わせたならば、肉体細胞に活力が漲るみなぎのは自然です。

その喜びのエネルギーは、肉体細胞の思いと一つになって、さらに喜びを大きくして肉に返ってきます。

身体も元気、そして、肉の心も元気、そうなれば、誰しも自然にさらに心を向けていこうとなってきます。喜びで心を向けていこうとなってきます。

そんな喜びの循環を、どうぞ、ご自分の中で作ってください。

私は、田池留吉の磁場に思いを向けています。私（意識）は、今のこの肉体を離しても、田池留吉の磁場の中にあることを知っています。瞑想の中でそう感じています。

だから、来世の肉を持つまでの間、私は、その磁場を感じて自分を学び続けます。そして、私は待ちに待った肉を持つのです。満を持して肉を持つのです。

肉を持って次元移行のメッセージを発信していく喜びの時間、約50年の時間をいただきます。

私は本当に嬉しいです。今、田池留吉の意識、アルバートの意識と出会い、そして、磁場のエネルギー、波動、パワーを、肉を持って学ばせていただいていることに、私はもう、ただただありがとうございます。

やっと、やっと出会え、そして、一つに溶け合う喜びをこれから先ずうっと広げていけると、私（意識）は感じているからです。

(2011年12月7日掲載分まで)

<http://www13.ocn.ne.jp/~utamate/>

意識の流れ あなたに語り掛けましょう 第3巻

2012年5月20日 第1版第1刷発行

編集 / 発行 U T A 会

印刷 / 製本 モリモト印刷株式会社

落丁本・乱丁本はお取り替えいたします。

© 2012 Printed in Japan